
埼玉医科大学総合医療センター

消化管・一般外科

2015年度年報



巻頭言

運営責任者・教授・診療部長 石田秀行

私が診療科の責任者を拝命してから11年目の業績集を刊行いたしました。昨年「消化管・一般外科 10周年記念誌」を刊行してからあっという間の1年でした。毎年成長していく診療科を夢見ながら日々忙しく過ごしていますが、診療・研究・教育のいずれの面から見ても「こうしたほうがよかったのではないか?」と自問自答することが多かった1年間でした。関係各位におかれましては、今後とも貴重なご指導・ご助言等賜ることができましたら幸甚です。



今年の夏開催されたリオデジャネイロ・オリンピックでは、2020年の東京オリンピックに期待が寄せられる日本人の活躍がありました。私は学生時代に柔道をやっていたので、柔道やレスリング等の格闘技には特別な思いを抱きながらテレビの前で観戦しました。柔道の神髄はいうまでもなく「柔よく剛を制す」ですが、「礼儀」、「正攻法」といったスポーツマンシップの基本が柔道の神髄に繋がっています。近年の日本柔道は、いわゆるポイント柔道や青い柔道着の導入等、日本人に受け継がれてきた精神や伝統とはかけ離れた“世界のJudo”の潮流中で、混迷・埋没した状態が続いていました。今回のオリンピックでは正々堂々と向き合って勝負するルール改正も手伝って、日本の選手が「日本柔道」の神髄を“judo”のなかで存分に発揮している姿勢を垣間見るとともに、その大きな成長ぶりを実感することができました。トレーニング方法云々よりも、抜本的な意識改革が指導者・選手の間で共有された成果ではないでしょうか。女子レスリングにおいては歴史に残る大記録を打ち立てた選手、大記録達成目前に敗れた選手、全体的な活躍のなかでメダル獲得がなかった選手等、まさに悲喜こもごもでした。一流選手にしてみればメダル、しかも金メダルしか意味がないというのは当然かもしれません。しかし、負けてこそ多くのことを学ぶことができる、というのは万人の認めるどころであり、各々の選手にとって人生の糧になることは間違いありません。このような観点から、選手あるいは選手の家族のインタビューを興味深く聞き入りました。

当院では、今春、救命センター新棟がオープンし、現在は旧棟の改築が始まっています。現在より機能性に優れた総合病院になることが想定され、5年後が大変楽しみです。埼玉医科大学設立の理念や、埼玉県での医療の現状と将来の予測を考えますと、地域の中核病院である当院においては、あらゆる意味で「負け」は許されない立場にあります。特に、埼玉医科大学の推進する“patient-oriented medicine”については前進あるのみであり、地域や時代のニーズに合致した、質の高い医療を提供する体制を継続的に維持する必要があります。診療実績のランキングが何かと紙面を賑わす時代ですが、「羊頭狗肉」の医療は決して許されません。将来の埼玉県の医療を担う人材の育成にあたり、幅広く深い医学的知識や総合的判断力豊かな人間性を涵養していくことは、診療科の責任者を拝命している者の責務と考えております。浅学菲才な身ではございますが、「百折不撓」の精神を貫いていく所存でございますので、今後とも関係各位のご指導を賜りたく、重ねてお願い申し上げます。

胃癌治療の現状と展望

教授・副診療部長 持木彫人

群馬大学から埼玉医大に移動して丸3年が経過しました。就任後の2年間は胃癌の手術症例数は年間100例でしたが、昨年からは年間120例に増加しています。症例数を増やすためには、周辺の病院や医院へのアピールが重要であり、認知されるには3年から5年かかるだろうと思っていましたが、2年で増えだした事に少しだけホッとしています。手術術式も腹腔鏡を中心に適応の拡大と術式の改良を行って来ましたが、胃癌に対する腹腔鏡手術で唯一補助下であった幽門側胃切除術もデルタ吻合を取り入れて、完全腹腔鏡下手術となりました。これにより胃全摘術、噴門側胃切除術、幽門側胃切除術全てが、お臍とその周囲4カ所のみ傷となりました。デルタ吻合の導入により手術時間は若干延長しますが、腹腔内癒着の減少と患者さんの満足度の向上が予想されます。



また埼玉県各病院の手術症例数、各病院と関係、誰がキーパーソンなのかなど、埼玉県の医療事情がやっと分かってきたような気がしています。上部消化器癌、または胃癌の研究組織も立ち上げ、埼玉県で胃癌治療に携わっている外科医の横の繋がりも密になったと思います。埼玉県の胃癌手術症例数は主な5病院で年間800例以上あり、まとまる事によって、相当な臨床研究ができます。最近、5病院が集まって臨床研究を行うためのNPO法人を立ち上げる事で合意し、事務的な作業に進んでいます。このNPOを中心として近い将来、臨床研究が開始される事を期待しています

今後の目標は何と言っても症例数の増加、さらに安全で体にやさしい手術をするべく低侵襲手術の適応拡大だと思っています。手術症例数では石畝君が年間150例との目標を立てておりますが、周辺医療機関へのさらなるアピール、そしてホームページを充実させる事による一般患者さんへの宣伝だと思っています。ネット環境の充実によって一般の患者さんはホームページを見ている事が多く、重要な情報発信源になっています。また腹腔鏡手術の経験数増加によって、リンパ節郭清では開腹手術以上に正確でクリアな郭清ができるようになっていきます。視野さえ確保できれば、進行胃癌に対しても腹腔鏡手術を導入することは可能と考えています。

研究面においては動物を使った基礎研究を細々と続けて来ましたが、マンパワーの問題で進んでいないのが現状です。大学病院である以上、研究を行う事は使命となります。現状を判断すると基礎研究よりも臨床研究に軸足を移す事が必要かと考えています。現在、進めつつある臨床研究は胃切除後の食道運動機能の解析です。同じ術式を行っても、逆流性食道炎を起こす症例、起こさない症例があります。おそらく食道収縮機能、特に2次蠕動波に問題があると推測しています。今後3年間で症例を集めて研究を進める予定です。手術症例の集積、消化管運動測定には多くの先生方にご協力をお願いするかと考えていますが、何卒宜しくお願ひします。

2015年度 フォトアルバム

2015年4月22日 歓迎会 川越プリンスホテル



2015年6月5-6日 家族性腫瘍学会 ラフレさいたま





2015年8月2日 鴨田会：藤岡正志先生を偲んで 東武ホテル



2015年11月3日 ゴルフコンペ Jゴルフ鶴ヶ島



2015年12月16日 忘年会 氷川会館



2016年1月6日 新年会 大穀



集合写真



目次

巻頭言

消化管・一般外科 運営責任者・教授・診療部長 石田秀行

胃癌治療の現状と展望

消化管・一般外科 教授・副診療部長 持木彫人

2015年度 フォトアルバム

寄稿

第21回日本家族性腫瘍学会学術集会を開催して..... 1
消化管・一般外科 准教授 石橋敬一郎

総務ごあいさつ..... 2
消化管・一般外科 講師 石畝 亨

丸木記念福祉メディカルセンター 緩和ケア内科部長を拝命して..... 3
丸木記念福祉メディカルセンター 緩和ケア内科部長 崎元雄彦

消化管・一般外科の一員になりました..... 4
消化管・一般外科 助教 坂本眞之介

「意志あるところに道は開ける」..... 5
消化管・一般外科 助教 石川 葵

新秘書のごあいさつ..... 6
桐山愛子

新秘書のごあいさつ..... 7
寺澤理世

診療実績..... 8

当科における診療・研究・教育..... 17

クリニカルカンファレンス・抄読会..... 21

業績

著書・分担執筆..... 25

総論・解説..... 27

学術論文..... 29

学会・研究会発表..... 41

座長・司会..... 63

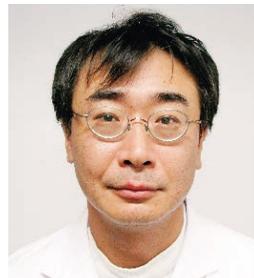
講演会・懇話会..... 67

表彰.....	72
主な学会・研究会発表の年次推移.....	73
構成員.....	74
編集後記.....	76

第21回日本家族性腫瘍学会学術集会を開催して

消化管・一般外科 准教授 石橋敬一郎

第21回日本家族性腫瘍学会学術集会を石田秀行会長のもと、2015年6月5日（金）および6日（土）にさいたま市のラフレさいたまで主催いたしました。学術集会のテーマは「未来に向けた道標（みちしるべ）」とし、第22回日本がん予防学会総会（石川秀樹会長）と第38回日本がん疫学・分子疫学研究会総会（梶村春彦会長）との同時並列でした。



本学会は、家族性腫瘍に携わる臨床医、基礎研究者、看護師、検査技師、遺伝カウンセラー、遺伝コーディネーターなど、多種多様な職種からなる医療関係者が一堂に集う学術集会であり、われわれが普段参加する外科系の学会とは異なる議論がなされる意義のある学術集会です。こうした学術集会の開催に関われたことは、私たち一同大変勉強になりました。演題募集期間の前半はなかなか演題が集まらず苦戦しましたが、最終的にはシンポジウム4題、ワークショップ10題、合同パネルディスカッション2題（日本がん予防学会総会、日本がん疫学・分子疫学研究会総会と合同企画）、サージカルセッション10題をはじめ、合計125題と多数の演題のご応募をいただくことが出来ました。

特別講演として、家族性腫瘍学会創立後20年が経過したことも含めて、野水 整先生（星総合病院 院長）から「日本家族性腫瘍学会20年の歩み」、富田尚裕先生（日本家族性腫瘍学会 理事長）から「日本家族性腫瘍学会の現状と将来展望」についてのご貴重なご講演がありました。また、会長講演では石田秀行会長が「少年の日の思い出～いつまで少年でいられるか～」のタイトルで、遺伝についても取り入れた、趣味である蝶のお話をされて非常に好評でありました。

学術集会の参加者は358名と例年より多く、初日朝早くから会場がいっぱいでした。参加者の多くは途中で退出することもなく、常に会場でメモを取りながら活発な議論が行われていた点が非常に印象に残っております。学術集会初日夜の全員懇親会（3学会合同）には182名が参加していただき、「川越まつり～連雀町囃子連 雀會」による「お囃子獅子舞」の余興も楽しんで頂けたと思います。

今回の学術集会は、消化管・一般外科としては初めての主催学会でありました。このため、右も左もわからないところからのスタートでしたが盛会裏に閉会することができましたのも富田尚裕理事長をはじめとする日本家族性腫瘍学会の皆様、トータルマップの飛松由紀子様、埼玉医科大学大関係者、教室の同門の先生方、および教室員、秘書さんのおかげであります。この紙面をお借りして御礼申し上げます。開催にあたり、反省すべき点も多々ありましたが今後の機会に活かしたいと思います。皆様、お疲れ様でした。

総務ごあいさつ

消化管・一般外科 講師 石畝 亨

私は2005年5月に埼玉医科大学病院 消化器一般外科IIから当教室に移籍してきました。当時は、2～3年が限界なのかな?とか、すぐ外に出されるんだろうなと思っておりましたが、気が付けば丸11年経過しておりました。そんな私が消化管・一般外科の総務を拝命して1年が経ちました。この間に新たに管理棟、救命救急新棟が建ちました。手術室も増室され、定時手術および緊急手術が以前よりスムーズに入るようになり、予定手術を決める負担が若干軽減されたように感じます。麻酔科および手術室スタッフに迷惑がかからぬよう、無理な手術申し込みはしないよう、私なりに最善の予定表を作成してきたつもりです。また、若手医師が焦らず手術ができるよう、執刀医により申し込み時間の調整もいたしました。当然、患者様の手術までの待機日数が長くないよう、初診から3週間以内には手術が行えるよう配慮いたしました。そのほかに、各教室員の外勤および当直の作成、病棟・外来・検査の予定なども、業務が安全かつスムーズに行えるような調整をいたしました。その間、いろいろなルールを決め教室員の皆様には若干の負担をかけましたが、おかげさまで、昨年後半ころより、安定かつ順調な業務の遂行が可能になりました。現在は、ところどころ、数人の教室員にこれらの調整役の手伝いをして頂いており、来年度からは中堅・若手教室員に移行していく? 予定です。最終的には教室員全員で運営を行えるよう、急に誰が欠けても大丈夫な布陣になるようにするのが私の責務であり目標でもあります。



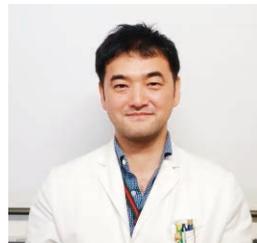
また、今年度より2人の新人医師も合流し新たなスタートを切りました。しかし、当教室では新専門医制度、慢性的ベット不足、逆紹介など問題は山積しております。これらを解消すべく周囲の先生方との連携を今以上に緊密にしていかななくてはならないと考えております。診療面では、常に最先端の医療ができるよう精進するとともに、後進の育成にも今まで以上に力を注ぐつもりでおります。

常日頃ご指導いただいている先生方には感謝の言葉しかありませんが、今後とも消化管・一般外科は先生方への御礼を忘れることなく、発展してまいりたいと思いますので、今後ともご指導・ご鞭撻のほどお願い申し上げます、総務のご挨拶にかえさせていただきます。

丸木記念福祉メディカルセンター 緩和ケア内科部長を拝命して

丸木記念福祉メディカルセンター 緩和ケア内科部長 崎元雄彦

2年前に消化管・一般外科に復帰させていただいてから、外来診療と緩和ケアチーム、NSTを中心に診療を行って参りましたが、今年4月より丸木記念福祉メディカルセンター（旧毛呂病院）の緩和ケア内科部長として出向しております。



毛呂病院は埼玉医大の母体で明治25年開設という埼玉県で一番古い歴史ある病院で、精神科・内科・回復期・緩和ケアを中心に現在では医療で500床以上、老健などの介護部分を含めると1000床以上もある実は巨大な病院です。

丸木記念福祉メディカルセンターでは緩和ケア病棟管理と緩和ケア外来が主な仕事となっています。病棟は20床（4人床3部屋、個室8部屋）で、昨年までは平均10床程度、在院日数40日前後でしたが、私が赴任してから半年程度で平均15床、30日前後と改善しました。また看護スタッフが半分以上入れ替わり、元々ががん診療を行っていない病院ということもあり、緩和ケア以前にがんという疾患の看護に慣れていないスタッフが少なからずおります。病棟業務では緩和ケアに関するスタッフ教育を行いながら増える患者さんへの受け入れ体制を整える必要があると感じています。外来は予約制ですが患者さんの数は大きく予約枠を超えており、初診については1ヶ月以上お待ちいただくことも多くなっています。さらに総合医療センターをはじめ国際医療センター等にも伺わせていただいていますので、今まで以上に忙しい日々を過ごしております。年をとってきたせいか、家に帰ると疲れてそのまま床で意識を失うように寝て過ごしています。これから来る冬が心配です。

埼玉県の緩和ケアは医師・施設ともに全国最低レベルとなっています。そのような状況の中で丸木記念福祉メディカルセンター緩和ケア病棟は埼玉医大グループで唯一の緩和ケア病床です。今までの総合医療センター緩和ケアチームでの経験を生かし、微力ながら皆さんの力になればと思い頑張っています。

消化管・一般外科の一員になりました

助教 坂本眞之介

私は平成26年に埼玉医科大学を卒業し、同年埼玉医科大学総合医療センターの初期臨床研修医として就職しました。救急・外科コースで2年間の初期臨床研修を経て消化管・一般外科に誘っていただき、平成28年4月、同期の石川葵とともに当科の一員となりました。



私は初期臨床研修のほとんどを外科と救急に費やしました。私が消化管・一般外科で初期研修を過ごした時には、上部消化管と下部消化管の両方のチームで多くの手術に入ることができ、鼠径ヘルニアや虫垂炎の手術のときには執刀も経験し、そこで生きた外科手技を教えてくださいました。先生方には熱く、やさしく、ときに厳しく指導していただいたのを覚えています。また手術、内視鏡、病棟業務、学会発表、論文作成とたくさんの仕事をこなすその背中にあこがれ、医局全体の雰囲気も良く、私も消化管・一般外科の一員として働きたいと思い、初期臨床研修2年目の秋に入職を決めました。当時先生方に教えていただいた外科医としての姿勢や心構えは今の私の基盤になっています。

消化管・一般外科の一員になって、気づけば6か月目に突入しました。最近は少し慣れてきましたが、4月の上部消化管チームから始まり、毎日が覚えることや新しいことの連続で大変ですが、充実した日々を送っております。私は3年目ですが、すぐ上には7年目以降の先生たちがズラリと並んでおり、初めはついていけるか不安でした。ですが医師年数に関係なく気さくにやさしく指導して下さる先生方に、入職前の不安は消し飛び、楽しく働いています。半年がたち、来年からは後輩も入ってくるので少しずつ教えることも増えていくだろうと思うと、いっそう身が引き締まる思いです。私も後輩や、学生たちにあこがれてもらえる背中に少しずつなっていけたらなと思います。

私は外科医としてまだまだ未熟で、皆様にご迷惑をおかけすることが多々あるとは思いますが、あこがれの先輩方の背中に少しでも近づけるように精進したいと思いますので、どうかご指導ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

「意志あるところに道は開ける」

助教 石川 葵

私は2014年3月に埼玉医科大学を卒業後、埼玉医科大学総合医療センターで2年間の初期研修を経て、2016年4月に消化管・一般外科の一員になりました。

もともと中学生の頃から腎臓の持病があったこともあり、学生時代は内科へ進むことを希望しておりました。しかし、大学5年生での臨床実習でこちらの消化管・一般外科を回らせて頂き、先生方に手術の魅力を教えていただいたことで外科への憧れがどんどん強まっていきました。また、研修中にも回らせていただき、実際に医師として診療に参加させていただくことで外科への憧れは私の将来の目標へと変わりました。さらに研修中は手術前後の患者さんだけでなく終末期の患者さんにも関わらせていただき、先生方が患者さんのことを一番に考えて診療されていることを実感し、消化管・一般外科の一員となることを決意しました。



その後は自分の不勉強さと向き合う毎日で反省の連続ですが、石田教授、持木教授をはじめとした上級医の先生方に時に優しく時に厳しくご指導いただき、また悩みや喜びを分かち合える同期にも恵まれて今までの人生で一番楽しく充実した日々を過ごさせていただいております。さらに、研究日に勤務させていただく各病院の先生方にも、普段総合医療センターではみられない疾患の診療についてご教授いただき大変勉強になっております。

このような素晴らしい環境で勉強させていただけること、自分の生きがいとなる診療科にめぐり合わせていただけたことに感謝しております。

私の座右の銘は『意志あるところに道は開ける』です。至らないところばかりでご迷惑をお掛けしておりますが、日々少しずつでも成長し自分の将来の道を開けるように強い意志を持って精一杯努力していきます。

これからもご指導、ご鞭撻のほどよろしく願いいたします。

新秘書のごあいさつ

桐山愛子

私が消化管・一般外科の秘書としてお仕事をさせていただき、半年が過ぎました。実験助手の齋藤さんといわゆるママ友という縁でお仕事を紹介していただき、お世話になっております。

最初にお仕事のお話をいただいた時は、病院の勤務は経験が無いけれど、ちょっとした事務なら何とかかな…と軽い気持ちでした。面談に伺った時も、飛び立つドクターヘリを教授室の窓からカッコイイ！と眺めて感動したり、教授と楽しくお話をしたりであまり緊張もせず、それではよろしく願いいたします～と帰った覚えがあります。



しかし、いざ、出勤してみると…わからないことだらけで少々あわてました。電話口から聞こえてくるヨコモジの機器の名前や製薬会社名、複雑な病院名や部署の名前などが聞き取れず、電話が鳴るたびにおびえていました。電話におびえすぎて、教室の先生からの内線電話でさえお名前を聞き間違えてしまい、結局どなたが電話をしてきたのかわからなくなってしまうこともありました。電話の取次ぎひとつ満足にできないなんて…とかなり落ち込みました。オロオロするばかりの私に、教授をはじめとして教室の先生方、先輩秘書さんもあたたかく接してください感謝の気持ちでいっぱいです。

8月には鴨田会（同門会 懇親会）が開催されました。案内状の作成・郵送などを頼まれたのですが、初めての事で不手際が多く、無事に開催できるのかずっと不安でした。当日はたくさんの先生方にお会いできました。みなさんに、あたらしい秘書さんが頑張って、とあたたかいお言葉をいただき、たいへんうれしく思いました。ありがとうございます。

毎日、わからない事だらけで相変わらずオロオロしています。習うより慣れろ、でがんばっていきたいと思います。これからもご迷惑をおかけしてしまうかも…と思いますがどうかよろしく願いいたします。

「大学病院の秘書だけど、やってみない？」と声を掛けられ、何人の方と面接、面談をしたのか。前職とはすべてがかけ離れている仕事なため、これは本当に一からだな。と思っていた頃から、半年以上が経ちました。今まで事務経験がないことは面接時に伝えていたものの、最初は自分から何かを始めることができずにいて、毎日、「どうしよう」のくりかえしでした。まずは慣れることだと思い、与えられた仕事をゆっくりでもやりきることを心がけました。聞いたことのない用語、作業に慣れるには時間がかかりましたが、今ではここでの仕事も自分のやるべきこと、できること、プラス α で動けることを一日の時間でやりきるようになってきています。



最初の面接のときに未経験で場違いなんじゃないかと不安ではしかなかったのですが、面接を担当してくださった先生が「いいと思います」と一言言ってくださったことで「場違いじゃなかった」と思うことができました。快く迎え入れてくださった先生方のためにも今はまだ微力ではありますが、仕事がよりスムーズにすすむ環境にできるよう努力していこうと思っています。

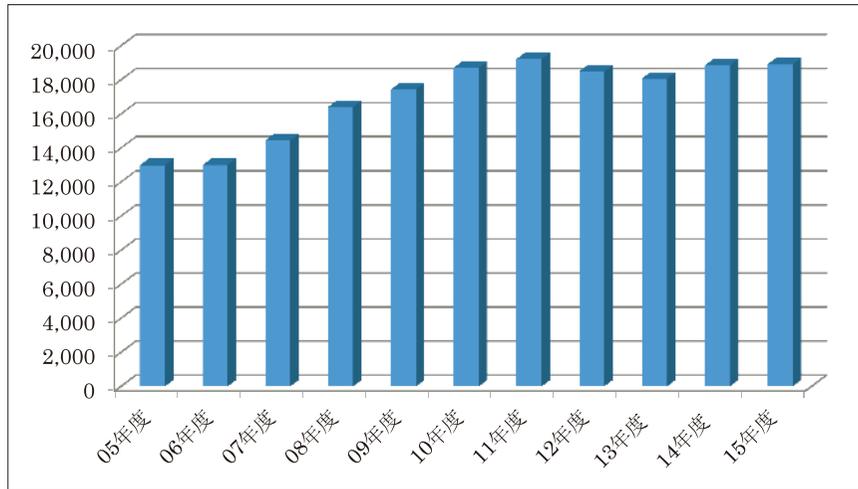
知識も経験もマイナスからのスタートでしたが、今は丁度プラスマイナス0のあたりでしょうか。知識や技術がプラスになるには程遠いかもしれませんが、関心と期待はプラス45°くらいにはなったと思います。

もうしばらく手探りの状態続くかもしれませんが、精一杯ついてゆきますので、今後とも宜しくお願い致します。

診療実績

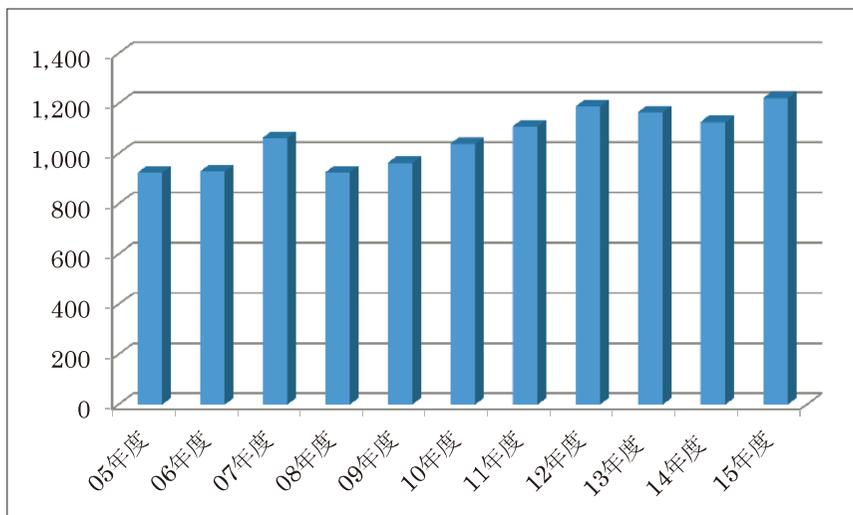
1) 外来

①外来患者総数（のべ人数）



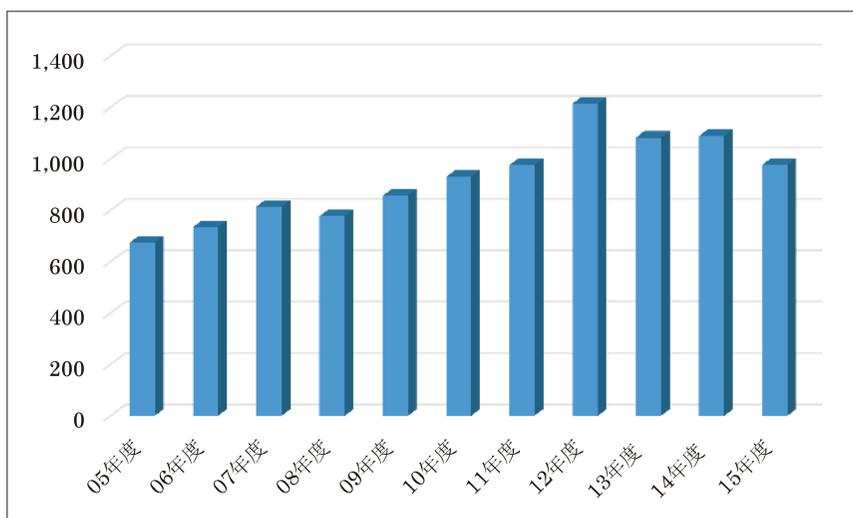
05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
13,000	13,008	14,444	16,413	17,442	18,718	19,229	18,499	18,082	18,856	18,917

②上部消化管内視鏡検査件数



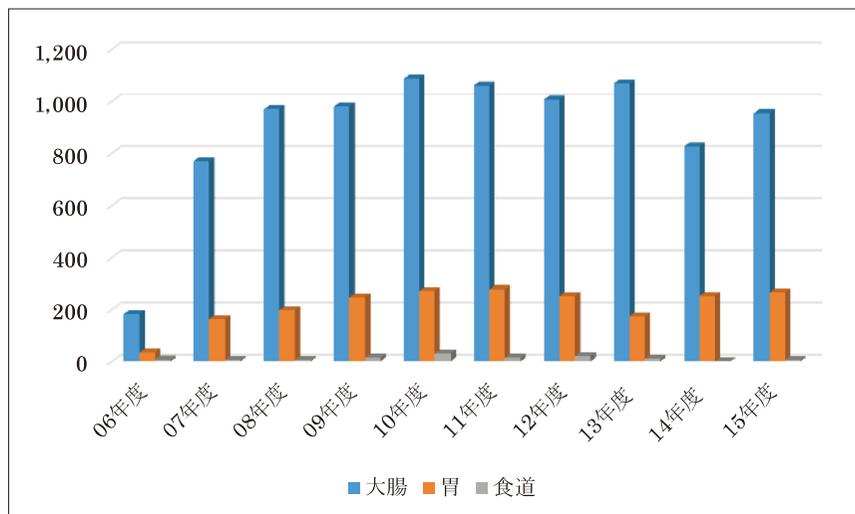
	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
件数	925	930	1,063	926	963	1,039	1,110	1,188	1,165	1,126	1,222
EMR・ESD	3	6	6	10	5	0	7	10	13	9	14
PEG	7	11	25	34	39	32	36	29	23	23	18
ブジー	1	10	2	3	5	6	25	63	51	48	28

③下部消化管内視鏡検査件数



	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
件数	675	734	814	776	857	929	975	1,215	1,082	1,089	978
ポリペク	112	68	36	46	41	36	42	21	23	25	18
EMR	13	52	80	72	87	98	103	93	83	96	73
ステント								24	23	18	9

④外来化学療法件数



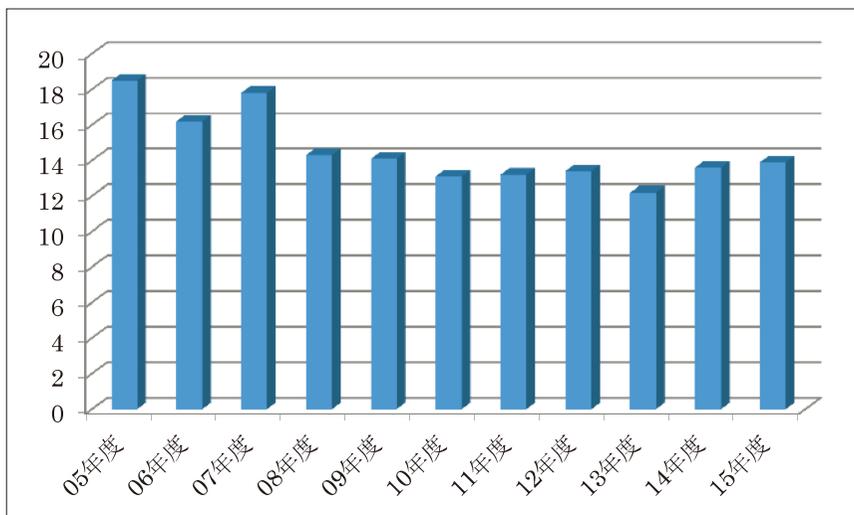
	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
大腸	183	770	969	979	1,087	1,061	1,007	1,069	826	953
胃	34	163	197	247	271	278	252	174	253	265
食道	8	6	5	14	31	14	21	10	0	6

2) 入院

①入院患者総数とおもな疾患

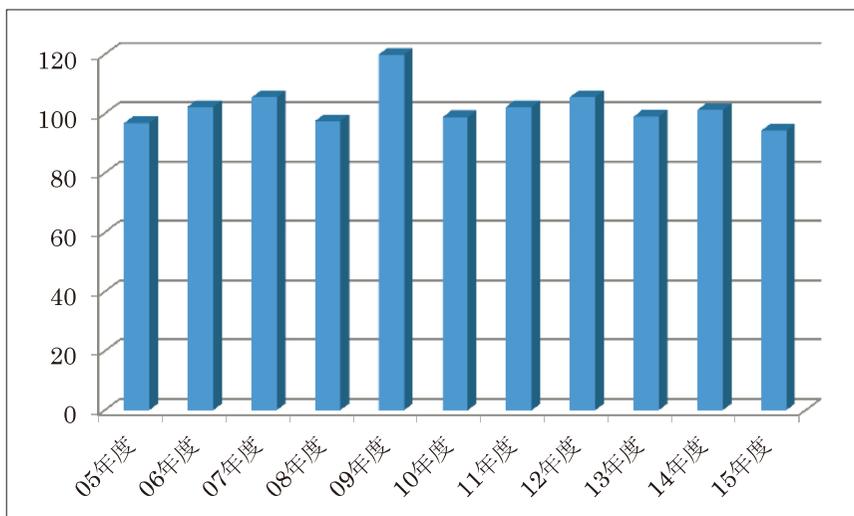
	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
入院患者総数	1,156	1,104	1,107	1,252	1,289	1,421	1,482	1,491	1,532	1,498	1,420
(1) 食道癌	37	68	95	116	127	123	150	157	108	143	148
(2) 胃癌	154	154	169	280	282	272	277	295	259	273	255
(3) 大腸癌	206	379	265	335	362	390	383	428	458	405	451
(4) 潰瘍性大腸炎	10	7	7	8	9	12	8	9	8	17	10
(5) クローン病	14	10	10	6	3	13	18	12	14	20	5
(6) 急性虫垂炎	87	68	83	71	90	87	97	95	98	74	64
(7) 鼠径ヘルニア	107	129	110	112	115	102	153	135	123	109	105
(8) 内痔核	9	17	10	4	45	58	69	40	47	29	23

②平均在院日数



05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
18.5	16.2	17.8	14.3	14.1	13.1	13.2	13.4	12.2	13.6	13.9

③病床稼働率 (%)



05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
96.9	102.3	105.5	97.6	120.7	98.9	102.3	105.6	99.1	101.2	94.3

④手術件数

	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
(1) 食道悪性腫瘍	10	22	28	19	16	13	23	26	27	30	33
(2) 胃悪性腫瘍 (接合部癌含む)	104	97	103	127	101	96	104	112	106	104	117
(3) 結腸悪性腫瘍	136	126	90	104	86	96	115	144	124	104	128
(4) 直腸・肛門(管) 悪性腫瘍	36	37	62	44	43	58	46	48	84	75	50
(5) 潰瘍性大腸炎	2	1	2	4	4	1	4	4	3	2	3
(6) クローン病	7	6	7	4	5	11	5	7	5	6	3
(7) 急性虫垂炎	61	77	71	81	74	81	84	81	77	66	56
(8) 鼠径ヘルニア	107	134	109	146	119	104	152	143	124	114	107
(9) 内痔核	9	13	10	1	46	75	65	31	45	26	21
緊急	221	200	260	270	186	246	247	243	269	246	199
定時	442	518	514	494	582	590	651	663	681	678	652
全手術数	663	718	774	764	768	836	898	906	950	924	851

2015年度 手術詳細（術式または疾患）

食道良性	4		
特発性食道破裂		単純閉鎖・胃底部パッチ充填術	1
		胃管再建術	1
アカラシア		腹腔鏡下筋層切開術	1
食道平滑筋腫		右開胸筋腫核出術	1
食道悪性	31		
		右開胸開腹食道亜全摘術	25
		内視鏡的粘膜下層剝離術	4
		左開胸開腹下部食道胃全摘術	1
		左開胸開腹下部食道噴門側胃切除術	1
胃・十二指腸良性	19		
胃潰瘍穿孔		単純閉鎖・大網被覆術	5
		単純閉鎖・大網充填術	4
		胃全摘術	1
		幽門側胃切除術	1
十二指腸穿孔		単純閉鎖・大網被覆術	5
		単純閉鎖・大網充填術	1
		その他	2
胃悪性	117		
接合部癌		左開胸開腹下部食道胃全摘術	1
		左開胸開腹下部食道噴門側胃切除術	1
胃癌		胃全摘術	21
		腹腔鏡下胃全摘術	5
		幽門側胃切除術	14
		腹腔鏡下幽門側胃切除術	45
		残胃全摘術	2
		腹腔鏡下噴門側胃切除術	4
		バイパス術	2
		部分切除術	2
		穿孔部大網充填術	1
		その他（試験開腹含む）	6
胃 GIST		胃部分切除術	5
		腹腔鏡下胃部分切除術	6

	幽門側胃切除術	1
	噴門側胃切除術	1
十二指腸悪性 4	膵頭十二指腸切除術	1
	十二指腸部分切除術	3
小腸良性（小腸切除術） 15	小腸穿孔	7
	小腸狭窄	4
	小腸炎	1
	非閉塞性腸管虚血症	1
	上腸間膜動脈閉塞症	2
イレウス 36（解除術、小腸切除術など）		
虫垂炎 56	腹腔鏡下虫垂切除術	42
	虫垂切除術	10
	回盲部切除術	4
炎症性腸疾患（悪性腫瘍合併を除く） 6		
潰瘍性大腸炎	腹腔鏡補助下大腸全摘・回腸囊肛門(管)吻合術	3
クローン病	結腸右半切除術	1
	腹腔鏡補助下回盲部切除術	1
腸管バーチエット病	結腸右半切除術	1
家族性大腸腺腫症（大腸癌合併を除く） 3		
	腹腔鏡下大腸全摘・回腸囊肛門吻合術	3
大腸良性 22		
大腸憩室穿孔	ハルトマン手術等	16
大腸臃瘻	根治術、人工肛門造設術	3
大腸膀胱瘻	根治術	1
S状結腸軸捻転症	根治術	1
上行結腸捻転症	根治術	1
結腸（直腸S状部含む）悪性 129		
	回盲部切除術	9
	腹腔鏡下回盲部切除術	9
	結腸右半切除術（右結腸切除術、拡大も含む）	18

	腹腔鏡下結腸右半切除術	14
	結腸左半切除術	2
	腹腔鏡下結腸左半切除術	1
	S状結腸切除術	6
	腹腔鏡下S状結腸切除術	19
	結腸部分切除術	14
	腹腔鏡下結腸部分切除術	11
	結腸全摘術	3
	腹腔鏡下結腸全摘術	1
	高位前方切除術	8
	腹腔鏡下高位前方切除術	11
	ハルトマン手術	3
直腸悪性 50		
	低位前方切除術	10
	腹腔鏡下低位前方切除術	14
	超低位前方切除術（ISR含む）	11
	腹会陰式直腸切断術	6
	ハルトマン手術	3
	経肛門の腫瘍切除術	5
	試験開腹術	1
肛門良性 34		
	内(外)痔核	
	結紮切除術	16
	ALTA	5
	痔瘻根治術	5
	直腸脱修復術（開腹固定術）	2
	肛門狭窄形成術	2
	尖圭コンジローマ（切除）	2
	肛門ポリープ（切除）	1
	膿皮症（切除）	1
肝転移 15		
	部分切除術	7
	葉切除術	4
	区域切除	4

ヘルニア（修復術等） 126

鼠経	107
大腿	3
閉鎖孔	3
腹壁癒痕	8
その他	5

診療

■食道癌

食道癌のstage、年齢、全身状態を総合的に評価し、治療法（内視鏡、手術、化学療法、放射線療法など）を決定しています。内視鏡検査では最先端内視鏡（エンドサイトスコープ）を使用し、微細血管構造より深達度判定を行うとともに、直接、細胞を観察し良悪性を判断するなど、より詳細な術前検査を行っております。治療法の決定に当たっては放射線科医、消化器科医と定期的にカンサーボードを開催し最善の治療を提供するよう心がけております。手術治療は右開胸・3領域郭清を原則としており、化学放射線治療後のサルベージ手術も行っております。JCOG9907の結果をもとにStage II、III食道癌の患者様には積極的に術前化学療法を行い予後の改善を図っております。手術においては、縫合不全などの合併症を減らす目的で、ICG蛍光法を用いて再建胃管の血流を確認し、確実な消化管吻合を行っております。当科では最近4年間縫合不全を経験しておりません。また、当科における食道癌の患者様は、高度進行癌、高齢者、併存症の合併する方も多いため、化学放射線療法もしくは放射線単独療法の治療も治療法の大きな柱と考えております。こちらも近年の化学放射線療法や栄養療法の進歩により、生存期間の延長が図られつつあり、さらなる成績の向上に努めております。

■胃癌

早期胃癌に対する治療は内視鏡治療の適応がある症例では、消化器内科との相談でEMRまたはESDを行っております。内視鏡治療適応外、ESD後の追加治療症例の早期胃癌では腹腔鏡下幽門側胃切除術、腹腔鏡下噴門側胃切除術、腹腔鏡下胃全摘術を行っております。2015年より吻合も体腔内で行う完全鏡視下を導入し良好な成績を上げております。また、これまでは、腹腔鏡下胃切除術はcT1からcT2N0としていましたが、現在は、T2N1、T3症例まで適応を拡大広げておりD2郭清を行うことを検討しております。

そのほかに、胃切除術後の消化管機能障害を改善するために、迷走神経腹腔枝温存胃切除術などの機能温存術式も採用しています。胃切除術後に消化管機能障害がある症例では、消化管運動機能を内圧測定法を用いて評価し、運動機能の状態に応じて大建中湯、ガスモチン、グルタミンなどの薬剤を用いて治療を行っております。進行胃癌に対しては開腹による標準的な胃切除術を行いますが、術前より根治切除不能因子がある場合は、抗癌剤治療を導入します。高度進行胃癌に対する抗癌剤治療は標準治療であるS-1+cisplatin、Her2陽性胃癌に対してはXP+ハーセプチン（S-1+cisplatin+ハーセプチン）を第一選択として治療をしております。しかし、腎機能低下症例や高齢者では、標準治療が継続できない症例が多く、

SOX療法やCapeOX等も積極的に行っております。これらの、化学療法によって根治切除不能因子が消失した症例では、積極的にconversion surgeryを行い、胃癌完治を目指しています。

■大腸癌

stageⅢまでの進行結腸癌に対しては、腹腔鏡補助下手術を第1選択としています。直腸癌については、結腸癌より早期の症例を中心に腹腔鏡補助下低位前方切除を導入しています。歯状線近くの下部直腸進行癌には根治性を損なうことなく肛門を温存する超低位前方切除術あるいは括約筋間切除術も取り入れています。T3/T4の局所進行下部直腸癌に対し、選択的に術前化学放射線療法を導入しています。近年の化学療法の著しい進歩により、stageⅣあるいは再発大腸癌の治療成績は飛躍的に向上しています。1次、2次治療としては原則的にFOLFOX(CapeOX)あるいはFOLFIRI療法に適宜分子標的薬(bevacizumab, cetuximab, panitumumab)を併用しています。3次治療以降の化学療法についても大腸癌治療ガイドラインに準拠した治療を行っています。全国的にみて、外科系診療科のなかでは当科の化学療法の治療件数はきわめて多く、新知見を内外に発信しています。

大腸癌肝転移については集学的治療によって、治療成績は向上していますが、切除可能な肝転移については安易な(エビデンスに乏しい)化学療法を先行するようなことはせずに、切除可能であればはじめから手術を行っています。なお、大腸癌治療に関する多くの多施設共同臨床試験に参加、あるいは当科独自に計画し、標準化されていない治療法に関し、常に診療科としての質の向上を目指しています。

家族性大腸腺腫症の患者・家族の外来受診が着実に増加しています。密生型に対しては大腸全摘、回腸囊肛門(管)吻合、非密生型では結腸全摘・回腸直腸吻合を主に腹腔鏡補助下で行っています。また、リンチ症候群の遺伝子診断やサーベイランスを目的に受診される患者の外来受診が急増しています。遺伝子診断は十分なカウンセリングのもとで行っています。

■炎症性腸疾患

潰瘍性大腸炎、クローン病に対する内科的治療抵抗症例、緊急症例は当科で診療しています。潰瘍性大腸炎に対しては家族性大腸腺腫症と同様に肛門温存大腸全摘術を、クローン病に対しては病変に応じて腸管の切除や狭窄形成術などを行っています。

■肛門疾患

肛門疾患の大半の痔核に対する簡便で安全なALTA硬化療法が保険収載され、2009年から当科でも導入しています。当院の特性上様々な併存疾患を有する症例にも施行していますが、重篤な合併症もなく良好な成績を得ています。この治療は、日本大腸肛門病学会の認定施設で修練した医師が、内痔核治療法研究会で認

定された一定の知識と技術を習得して行います。

■腹部救急疾患

胃・十二指腸潰瘍穿孔に対しては、術前の臨床所見やCTでの腹水量から治療方針を決定しています。術式は小切開手術や腹腔鏡下手術など低侵襲性手術を行っております。

予後不良な大腸穿孔に対しては、迅速かつ確実な手術に心がける一方、SSCG (Surviving sepsis campaign guidelines) に準拠した集中治療のほか、手術での工夫 (Hinchey I / IIでは一期的吻合、Hinchey III / IVではハルトマン手術、人工肛門周囲の創閉鎖の工夫など) を行っております。

重症例ではポリミキシンB固定化カラムによる直接血液灌流法やトロンボモジュリンの投与などを含めたDICを念頭に集学的治療を行い、septic shock./severe sepsis症例の救命率は70%以上です。埼玉県内では、abdominal sepsisを積極的に治療している施設であり、多くの知見を内外に発信しています。

■ヘルニア

原則的に tension free 法を採用し、外鼠径ヘルニアには Mesh plug 法、Lichtenstein 法、内鼠径ヘルニアには UHS 法、direct Kugel 法などを行っております。また、再発ヘルニアに対しては腹腔鏡を併用したハイブリッド手術も導入しております。金曜日入院、土曜日手術、日曜日あるいは月曜日の退院としております。

研究

当科は、日常臨床で多数の消化管悪性腫瘍の治療を行いながら、消化器癌の基礎研究にも熱意を注いでいます。食道癌、胃癌、大腸癌などの悪性腫瘍を中心に診療を通じて蓄えられた貴重な臨床的データと、患者様からインフォームドコンセントを経て得られた貴重な検体を活用して、日々研究に取り組み、新しい知見を追及しています。当科の研究室では、遺伝子レベルの研究を迅速にすすめる体制が構築されており、発癌に関わる遺伝子群の探索から始まり、癌関連遺伝子の遺伝個型の解析、抗癌剤の治療効果予測因子となる遺伝子群や予後因子となる遺伝子群の検索など、癌の診断や治療にフィードバックできる臨床と基礎の架け橋になるような研究に取り組んでおります。また、遺伝性大腸癌の1～5%を占めると推定されているリンチ症候群のスクリーニング・診断が可能な体制を構築しており、大腸癌研究グループのスタッフが一丸となって取り組んでいます。遺伝性大腸癌および類縁疾患の診断と体細胞レベルでの研究は埼玉医科大学ゲノム医学研究センター、埼玉がんセンターをはじめ、全国の数施設との共同研究として進めています。その成果の一部はすでに世界に向けて発信されていますが、今後のさらなる飛躍に向けて日々尽力しているところです。

教育

本学の医学部学生臨床実習は5年生が5～6人1組の実習組ごとに各科をローテーションします。消化器外科は各組の学生が大学病院または国際医療センターと、総合医療センターに分かれて実習しています。

当科には常に2～3名（時に4名）の学生が実習することとなり、各学生はなるべく希望臓器に従ってチームに1名ずつ配属され、手術を中心に検査、カンファレンス、回診などに参加してもらい、チームの一員として実地臨床の経験を積めるよう配慮しています。各学生とも印象的な手術・経験と出会えたようです。講義としては、結紫・鏡視下手術トレーニングボックスのほか、手術ビデオ供覧、課題解説・総括のほか、岩間毅夫客員教授の家族性大腸癌講義が行われています。

クリニカルカンファレンス・抄読会

クリニカルカンファレンス

日時	チーム	題名
2015/04/22	黄	サイトメガロウイルス感染による十二指腸穿孔
2015/11/11	青	大動脈食道瘻
2016/02/03	黄	胃癌術後肝転移に対する Cape OX 療法

抄読会

日時	チーム	題名
2015/04/01	熊谷	Intraoperative assessment of perfusion of the gastric graft and correlation with anastomotic leaks after esophagectomy. Ann Surg 2015; 262: 74-78
2015/04/08	福地	Protein-bound polysaccharide K suppresses tumor fibrosis in gastric cancer by inhibiting the TGF- β signaling pathway. Oncol Rep 2015; 33: 553-558
2015/04/15	傍島	Conventional stents versus stents loaded with ¹²⁵ I seeds for the treatment of unresectable oesophageal cancer: a multicentre, randomised phase 3 trial. Lancet Oncol 2014; 15: 612-619
2015/10/14	石畝	Perioperative bridging anticoagulation in patients with atrial fibrillation. N Engl J Med 2015; 373: 823-833
2015/10/28	今泉	Does adjuvant radiotherapy benefit patients with diffuse-type gastric cancer? Results from the surveillance, epidemiology, and end results database. Cancer 2014; 120: 3562-3568
2015/11/04	天野	The effectiveness of self-expandable metallic stent insertion in treating right-sided colonic obstruction: a comparison between SEMS and decompression tube placement and an investigation of the safety and difficulties of SEMS insertion in right colons. Gastroenterol Res Pract 2014; 372918
2015/11/11	小倉	Multicentre analysis of long-term outcome after surgical resection for gastric cancer liver metastases. Br J Surg 2015; 102: 102-107

- 2015/11/18 近 Vemurafenib in multiple nonmelanoma cancers with BRAF V600 mutations.
N Engl J Med 2015; 373: 726–736
- 2015/12/02 伊藤 A Multicenter randomized trial of continuous versus intermittent β -lactam infusion in severe sepsis.
Am J Respir Crit Care Med 2015; 192: 1298–1305
- 2015/12/09 牟田 Women surgeons in the new millennium.
Arch Surg 2009; 144: 635–642
- 2015/12/16 平岡 Trial of short-course antimicrobial therapy for intraabdominal infection.
N Engl J Med 2015; 372: 1996–2005
- 2015/01/13 村田 A randomized trial of protocol-based care for early septic shock.
N Engl J Med 2014; 370: 1683–1693
- 2016/01/20 山本瑛 Temporary inferior vena cava filter indications, retrieval rates, and follow-up management at a multicenter tertiary care institution.
J Vasc Surg 2016; 64: 430–437
- 2016/01/27 石橋 FOLFIRI plus bevacizumab as second-line therapy in patients with metastatic colorectal cancer after first-line bevacizumab plus oxaliplatin-based therapy: the randomized phase III EAGLE study.
Ann Oncol 2015; 26: 1427–1433
- 2016/02/03 熊谷 Radio(chemo)therapy in elderly patients with esophageal cancer: a feasible treatment with an outcome consistent with younger patients.
Front Oncol 2014; 4: 100. doi: 10.3389/fonc.2014.00100.

- 2016/02/10 福地 The effect of lentinan combination therapy for unresectable advanced gastric cancer. *Anticancer Res* 2012; 32: 2365-2368
- 2016/03/23 崎元 Clinical implications of C-reactive protein as a prognostic marker in advanced cancer patients in palliative care settings. *J Pain Symptom Manage* 2016; 51: 860-867
- 2016/03/30 傍島 Hydroxyethyl starch reduces coagulation competence and increases blood loss during major surgery. results from a randomized controlled trial. *Ann Surg* 2014; 259: 249-254.

著書・分担執筆

1. 石田秀行.
「遺伝性大腸癌診療ガイドライン」のエッセンスと解説
家族性大腸腺腫症の疾患概念（総論）.
杉原健一編. ガイドラインサポートハンドブック 大腸癌2014年版, 医薬
ジャーナル社, 大阪, 2015, p.276-279
2. 石田秀行.
「遺伝性大腸癌診療ガイドライン」のエッセンスと解説
家族性大腸腺腫症の診断.
杉原健一編. ガイドラインサポートハンドブック 大腸癌2014年版, 医薬
ジャーナル社, 大阪, 2015, p.280-284
3. 石田秀行.
「遺伝性大腸癌診療ガイドライン」のエッセンスと解説
家族性大腸腺腫症の治療.
杉原健一編. ガイドラインサポートハンドブック 大腸癌2014年版, 医薬
ジャーナル社, 大阪, 2015, p.285-289
4. 石田秀行.
「遺伝性大腸癌診療ガイドライン」のエッセンスと解説
家族性大腸腺腫症の術後サーベイランス.
杉原健一編. ガイドラインサポートハンドブック 大腸癌2014年版, 医薬
ジャーナル社, 大阪, 2015, p.290-293
5. 石田秀行, 赤木究.
「遺伝性大腸癌診療ガイドライン」のエッセンスと解説
家族性大腸腺腫症の家族（血縁者）への対応.
杉原健一編. ガイドラインサポートハンドブック 大腸癌2014年版, 医薬
ジャーナル社, 大阪, 2015, p.294

6. 石田秀行.
「遺伝性大腸癌診療ガイドライン」のエッセンスと解説
リンチ症候群の疾患概念（総論）.
杉原健一編. ガイドラインサポートハンドブック 大腸癌2014年版, 医薬
ジャーナル社, 大阪, 2015, p.295-299
7. 石田秀行.
「遺伝性大腸癌診療ガイドライン」のエッセンスと解説
リンチ症候群の診断.
杉原健一編. ガイドラインサポートハンドブック 大腸癌2014年版, 医薬
ジャーナル社, 大阪, 2015, p.300-306
8. 石田秀行.
「遺伝性大腸癌診療ガイドライン」のエッセンスと解説
リンチ症候群の治療.
杉原健一編. ガイドラインサポートハンドブック 大腸癌2014年版, 医薬
ジャーナル社, 大阪, 2015, p.307-310
9. 石田秀行.
「遺伝性大腸癌診療ガイドライン」のエッセンスと解説
リンチ症候群の術後サーベイランス.
杉原健一編. ガイドラインサポートハンドブック 大腸癌2014年版, 医薬
ジャーナル社, 大阪, 2015, p.311-315
10. 石田秀行, 赤木究.
「遺伝性大腸癌診療ガイドライン」のエッセンスと解説
リンチ症候群確定患者の家族（血縁者）への対応.
杉原健一編. ガイドラインサポートハンドブック 大腸癌2014年版, 医薬
ジャーナル社, 大阪, 2015, p.316
11. 隈元謙介, 石田秀行.
腸疾患 遺伝性大腸癌.
渡邊昌彦, 國土典宏, 土岐祐一郎監修. 消化器外科学レビュー 2013-2014,
総合医学社, 東京, 2015, p.60-66

総論・解説

1. 石田秀行, 岩間毅夫.
遺伝性大腸癌: 家族性大腸腺腫症, *MUTYH*関連ポリポーシス, リンチ症候群.
II 大腸癌の疫学. 大腸癌の危険因子.
日本臨牀 73: 59-64, 2015
2. 隈元謙介, 石橋敬一郎, 石田秀行.
FOLFOX療法の治療効果予測因子の検索.
日本臨牀 73: 530-537, 2015
3. 石田秀行, 岩間毅夫, 富田尚裕, 小泉浩一, 赤木究, 石黒めぐみ, 渡邊聡明, 杉原健一.
遺伝性大腸癌の診療とガイドライン.
日本臨牀 73: 547-551, 2015
4. 松澤岳晃, 石田秀行, 鈴木興秀, 寺木祐一, 伊崎誠一.
Muir-Torre syndrome (ミュア・トール症候群).
日本臨牀 73: 175-179, 2015
5. 伊藤徹哉, 隈元謙介, 鈴木興秀, 近範泰, 岡田洋平, 山田拓己, 赤木究, 石田秀行.
尿路上皮がん.
日本臨牀 73: 486-491, 2015
6. 田中屋宏爾, 石田秀行.
小腸癌.
日本臨牀 73: 457-461, 2015
7. 小林宏寿, 岩間毅夫, 石田秀行.
Familial adenomatous polyposis (家族性大腸腺腫症).
日本臨牀 73: 94-98, 2015

8. 松澤岳晃, 石田秀行, 近範泰, 鈴木興秀, 石橋敬一郎, 岩間毅夫.
家族性大腸がんの頻度・診断と治療.
腫瘍内科 16 : 225-230, 2015
9. 福地稔, 近範泰, 石畝亨, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.
炎症性腸疾患と大腸癌.
臨床消化器内科 30 : 1401-1406, 2015
10. 石田秀行, 渡辺雄一郎, 近範泰, 田島雄介, 鈴木興秀, 松澤岳晃, 福地稔,
熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 岩間毅夫.
大腸外病変に対する対応－胃・十二指腸病変とデスモイド腫瘍－.
日本大腸肛門病学会雑誌 68 : 908-920, 2015
11. 山口達郎, 上野秀樹, 小泉浩一, 石田秀行, 岩間毅夫.
本邦の家族性大腸腺腫症の現状と臨床研究.
日本大腸肛門病学会雑誌 68 : 878-882, 2015
12. 福地稔, 石畝亨, 近範泰, 伊藤徹哉, 持木彫人, 石田秀行.
破傷風トキソイドと破傷風ヒトグロブリンの適応.
臨床外科 77 : 1411-1414, 2015
13. 福地稔, 石畝亨, 小倉俊郎, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.
外科医が知っておきたい癌化学療法と副作用対策 高齢者や肝腎機能障害への対応.
消化器外科 39 : 333-337, 2016
14. 田島雄介, 石田秀行.
家族性大腸腺腫症 (FAP).
臨床画像 31 : 105-108, 2015

原著 (英文)

1. Hatano S, Ishida H, Ishiguro T, Kumamoto K, Ishibashi K, Mochiki E, Tamura J.
Prediction of metastasis to mesorectal, internal iliac and obturator lymph nodes according to size criteria in patients with locally advanced lower rectal cancer.
Jpn J Clin Oncol 45: 35–42, 2015
2. Fukuchi M, Mochiki E, Suzuki O, Ishiguro T, Sobajima J, Onozawa H, Imaizumi H, Shibata K, Saito K, Naitoh H, Kumagai Y, Ishibashi K, Ishida H.
Factors predicting recurrence in patients with Siewert type II carcinoma treated with curative resection.
Anticancer Res 35: 505–510, 2015
3. Yamaguchi T, Furukawa Y, Nakamura Y, Matsubara N, Ishikawa H, Arai M, Tomita N, Tamura K, Sugano K, Ishioka C, Yoshida T, Moriya Y, Ishida H, Watanabe T, Sugihara K.
Comparison of clinical features between suspected familial colorectal cancer type X and Lynch syndrome in Japanese patients with colorectal cancer: a cross-sectional study conducted by the Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum.
Jpn J Clin Oncol 45: 153–159, 2015
4. Tanakaya K, Furukawa Y, Nakamura Y, Hirata K, Tomita N, Tamura K, Sugano K, Ishioka C, Yoshida T, Ishida H, Watanabe T, Sugihara K.
Relationship between smoking and multiple colorectal cancers in patients with Japanese Lynch syndrome: a cross-sectional study conducted by the Japanese Society for Cancer of the Colon and Rectum.
Jpn J Clin Oncol 45: 307–310, 2015
5. Kumagai Y, Kawada K, Higashi M, Ishiguro T, Sobajima J, Fukuchi M, Ishibashi K, Baba H, Mochiki E, Aida J, Kawano T, Ishida H, Takubo K.
Endocytoscopic observation of various esophageal lesions at x600: can nuclear abnormality be recognized?
Dis Esophagus 28: 269–275, 2015

6. Kumagai Y, Sobajima J, Higashi M, Ishiguro T, Fukuchi M, Ishibashi K, Mochiki E, Yakabi K, Kawano T, Tamaru J, Ishida H.
Coexpression of COX-2 and iNOS in angiogenesis of superficial esophageal squamous cell carcinoma.
Int Surg 100: 733–743, 2015
7. Watanabe T, Itabashi M, Shimada Y, Tanaka S, Ito Y, Ajioka Y, Hamaguchi T, Hyodo I, Igarashi M, Ishida H, Ishihara S, Ishiguro M, Kanemitsu Y, Kokudo N, Muro K, Ochiai A, Oguchi M, Ohkura Y, Saito Y, Sakai Y, Ueno H, Yoshino T, Boku N, Fujimori T, Koinuma N, Morita T, Nishimura G, Sakata Y, Takahashi K, Tsuruta O, Yamaguchi T, Yoshida M, Yamaguchi N, Kotake K, Sugihara K.
Japanese society for cancer of the colon and rectum (JSCCR) guide lines 2014 for treatment of colorectal cancer.
Int J Clin Oncol 20: 207–239, 2015
8. Kumamoto K, Ishida H, Ohsawa T, Ishibashi K, Ushiyama M, Yoshida T, Iwama T.
Germline and somatic mutations of the *APC* gene in papillary thyroid carcinoma associated with familial adenomatous polyposis: Analysis of three cases and a review of the literature.
Oncol Lett 10: 2239-2243, 2015
9. Kumamoto K, Imaizumi H, Hokama N, Ishiguro T, Ishibashi K, Baba K, Seki H, Ishida H.
Recent trend of acute appendicitis during pregnancy.
Surg Today 45: 1521–1526, 2015
10. Fukuchi M, Ishiguro T, Ogata K, Suzuki O, Kumagai Y, Ishibashi K, Ishida H, Kuwano H, Mochiki E.
Prognostic role of conversion surgery for unresectable gastric cancer.
Ann Surg Oncol 22: 3618–3624, 2015

11. Tajima Y, Ishida H, Yamamoto A, Chika N, Onozawa H, Matsuzawa T, Kumamoto K, Ishibashi K, Mochiki E.
Comparison of the risk of surgical site infection and feasibility of surgery between sennoside versus polyethylene glycol as a mechanical bowel preparation of selective colon cancer surgery : a randomized controlled trial.
Surg Today 46: 735–740, 2016
12. Yoshikawa K, Shimada M, Wakabayashi G, Ishida K, Kaiho T, Kitagawa Y, Sakamoto J, Shiraishi N, Koeda K, Mochiki E, Saikawa Y, Yamaguchi K, Watanabe M, Morita S, Kitano S, Saji S, Kanematsu T, Kitajima M.
Effect of daikenchuto, a traditional Japanese herbal medicine, after total gastrectomy for gastric cancer: a multicenter, randomized, double-blind, placebo-controlled, phase II trial.
J Am Coll Surg 221: 571–578, 2015
13. Muramatsu M, Tsuchiya A, Ohta S, Iijima Y, Maruyama M, Onodera Y, Hagihara M, Nakaya N, Sato I, Omura K, Ueno S, Nakajima H.
Measuring body composition using the bioelectrical impedance method can predict the outcomes of gemcitabine-based chemotherapy in patients with pancreaticobiliary tract cancer.
Oncol Lett 10: 3535–3541, 2015
14. Munemoto Y, Kanda M, Ishibashi K, Hata T, Kobayashi M, Hasegawa J, Fukunaga M, Takagane A, Otsuji T, Miyake Y, Nagase M, Sakamoto J, Matsuoka M, Oba K, Mishima H.
Capecitabine and oxaliplatin combined with bevacizumab are feasible for treating selected Japanese patients at least 75 years of age with metastatic colorectal cancer.
BMC Cancer 2015 Oct 24; 15: 786. doi: 10.1186/s12885-015-1712-0
15. Fukuchi M, Ishiguro T, Ogata K, Kimura A, Kumagai Y, Ishibashi K, Ishida H, Kuwano H, Mchiki E.
Risk factors for recurrence after curative conversion surgery for unresectable gastric cancer.
Anticancer Res 35: 6183–6188, 2015

16. Fukuchi M, Suzuki O, Nasu D, Koizumi K, Muta Y, Imaizumi H, Ishiguro T, Kumagai Y, Ishibashi K, Mochiki E, Ishida H.
Descending necrotizing mediastinitis treated with tooth extractions following mediastinal and cervical drainage.
Case Rep Gastroenterol 9: 311–316, 2015
17. Kumagai Y, Watanabe Y, Ishida H.
Endocytoscopic observation of duodenal polyps associated with familial adenomatous polyposis: Report of four cases.
Dig Endosc 7: 776–784, 2015
18. Nisikawa K, Fujitani K, Inagaki H, Akamaru Y, Tokunaga S, Takagi M, Tamura S, Sugimoto N, Shigematsu T, Yoshikawa T, Ishiguro T, Nakamura M, Morita S, Miyashita Y, Tsuburaya A, Sakamoto J, Tsujinaka T.
Randomised phase III trial of second-line irinotecan plus cisplatin versus irinotecan alone in patients with advanced gastric cancer refractory to S-1 monotherapy: TRICS trial.
Eur J Cancer 51: 808–816, 2015
19. Oki E, Emi Y, Kojima H, Higashijima J, Kato T, Miyake Y, Kon M, Ogata Y, Takahashi K, Ishida H, Saeki H, Sakaguchi Y, Yamanaka T, Kono T, Tomita N, Baba H, Shirabe K, Kakeji Y, Maehara Y.
Preventive effect of Goshajinkigan on peripheral neurotoxicity of FOLFOX therapy (GENIUS trial): a placebo-controlled, double-blind, randomized phase III study.
Int J Clin Oncol 20: 767–775, 2015
20. Eguchi H, Kumamoto K, Kohda M, Tada Y, Okazaki Y, Ishida H.
Identification of a Japanese Lynch syndrome patient with large deletion in the 3' region of the EPCAM gene.
Jpn J Clin Oncol 46: 178–184, 2016

原著（和文）

1. 熊谷洋一，傍島潤，石畝亨，持木彫人，河野辰幸，石田秀行.
ICG蛍光法を用いた再建胃管の血流に影響を及ぼす因子の検討.
手術 69：785-790, 2015
2. 熊谷洋一，川田研郎，伊藤徹哉，田久保海誉.
トピックス：食道表在癌の診断 Endocytoscopyによる診断.
消化器内視鏡 28：388-393, 2016
3. 熊谷洋一，天野邦彦，川田研郎，福地稔，石橋敬一郎，持木彫人，河野辰幸，
石田秀行，相田順子，田久保海誉.
Endocytoscopy systemを用いた胃・食道逆流症の観察.
潰瘍 43：24-28, 2016
4. 傍島潤，幡野哲，松澤岳晃，大澤智徳，岡田典倫，横山勝，中田博，石橋敬一郎，持木彫人，石田秀行.
直腸癌に対する経腹的側端吻合の手術部位感染と骨盤内再発.
日外科系連会誌 40：847-852, 2015
5. 石橋敬一郎，傍島潤，田島雄介，幡野哲，大澤智徳，岡田典倫，横山勝，中田博，隈元謙介，石田秀行.
直腸癌に対する肛門括約筋温存手術における closed suction drain 留置の意義.
日本外科系連合学会誌 40: 1069-1077, 2015
6. 松澤岳晃，近範泰，田島雄介，鈴木興秀，石畝亨，傍島潤，隈元謙介，福地稔，熊谷洋一，石橋敬一郎，持木彫人，石田秀行.
遠隔転移を伴う大腸癌を合併した家族性大腸腺腫症の治療経験.
家族性腫瘍 15：27-30, 2015
7. 田久保海誉，相田順子，西村誠，松田陽子，新井富生，熊谷洋一，岩切勝彦，星原芳雄.
【本邦における Barrett 食道癌の現況】 Barrett 癌の病理組織診断 異形成と癌，および Barrett 食道の組織学的 4 徴.
日本消化器病学会雑誌 112：257-263, 2015

8. 小野澤寿志, 隈元謙介, 松澤岳晃, 石畝亨, 傍島潤, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.
Stage IV大腸癌穿孔症例に対する化学療法の効果.
癌と化学療法 42 : 2242-2244, 2015
9. 小野澤寿志, 隈元謙介, 松澤岳晃, 石橋敬一郎, 石畝亨, 傍島潤, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.
Stage III大腸癌穿孔症例の治療の現状と問題点.
癌と化学療法 42 : 2245-2247, 2015

症例報告 (和文)

1. 鈴木興秀, 隈元謙介, 福地稔, 近範泰, 幡野哲, 松澤岳晃, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.
MSH6遺伝子の生殖細胞系列変異が認められたLynch症候群大腸癌の1例.
日本消化器外科学会 48 : 618-627, 2015
2. 小野澤寿志, 持木彫人, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 石田秀行.
経鼻経食道的腹腔ドレナージが奏効した腹腔鏡下胃全摘術後縫合不全の1例.
日本臨床外科学会雑誌 76 : 2433-2437, 2015
3. 増田大機, 落合高德, 熊谷洋一, 飯田道夫, 山崎繁, 杉原健一.
緊急開腹止血時に見逃された外傷性胃後壁損傷の1例.
臨床外科 70 : 900-902, 2015
4. 大澤智徳, 田島雄介, 近範泰, 山本梓, 石橋敬一郎, 石田秀行.
痔出血による重症貧血を呈した中学生男児に対するALTA療法の1治療例.
臨床肛門病学 7 : 12-15, 2015
5. 田島雄介, 幡野哲, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 近範泰, 小野澤寿志, 松澤岳晃, 持木彫人, 山口研成, 赤木究, 岩間毅夫, 石田秀行.
Stapled aileal-Pouch Anal Anastomosis後の残存直腸に繰り返し発生した粘膜内癌に対し全周性の粘膜切除を施行した家族性大腸腺腫症の1例.
癌と化学療法 42 : 2199-2201, 2015

6. 田島雄介, 隈元謙介, 山本梓, 近範泰, 渡辺雄一郎, 松澤岳晃, 石橋敬一郎, 持木彫人, 岩間毅夫, 赤木究, 石田秀行.
家族性大腸腺腫症に合併した異時性多発甲状腺乳頭癌の1例.
癌と化学療法 42:1833-1835, 2015
7. 伊藤徹哉, 斎藤勝, 小林祐介, 近範泰, 天野邦彦, 松澤岳晃, 石畝亨, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 隈元謙介, 大木進司, 持木彫人, 竹之下誠一, 石田秀行.
内臓逆位に合併した消化器癌に対して腹腔鏡下手術を行った2例.
癌と化学療法 42:2130-2132, 2015
8. 石橋敬一郎, 渡辺雄一郎, 近範泰, 田島雄介, 鈴木興秀, 松澤岳晃, 隈元謙介, 福地稔, 熊谷洋一, 馬場裕之, 持木彫人, 岩間毅夫, 石田秀行.
家族性大腸腺腫症に発生した子宮内膜癌, 卵巣癌, 十二指腸癌の1例.
癌と化学療法 42:1715-1717, 2015
9. 近範泰, 隈元謙介, 鈴木興秀, 山本梓, 田島雄介, 渡辺雄一郎, 小野澤寿志, 松澤岳晃, 江口英孝, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.
回腸人工肛門周辺に発生したFAP合併デスモイド腫瘍の1例.
癌と化学療法 42:1947-1949, 2015
10. 近範泰, 隈元謙介, 鈴木興秀, 福地稔, 松澤岳晃, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 江口英孝, 持木彫人, 石田秀行.
MSH6 遺伝子の生殖細胞系列変異を有するLynch症候群1家系.
癌と化学療法 42:2211-2214, 2015
11. 渡辺雄一郎, 馬場裕之, 傍島潤, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石川秀樹, 石田秀行.
小切開下に降温存全十二指腸切除術を施行したFAPの1例.
癌と化学療法 42:1761-1763, 2015
12. 渡辺雄一郎, 馬場裕之, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石川秀樹, 石田秀行.
家族性大腸腺腫症に併存した十二指腸神経内分泌腫瘍の1例.
癌と化学療法 42:1764-1766, 2015

13. 渡辺雄一郎, 馬場裕之, 松澤岳晃, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.
直腸癌の側方リンパ節転移と鑑別を要した神経鞘腫の1例.
癌と化学療法 42: 2262-2264, 2015
14. 坂本眞之助, 石橋敬一郎, 近範泰, 鈴木興秀, 松澤岳晃, 傍島潤, 福地稔, 熊谷洋一, 持木彫人, 石田秀行.
多発性大腸癌を伴った若年者潰瘍性大腸炎の1例.
埼玉県医学雑誌 50: 521-526, 2016

その他

1. 石田秀行.
編集後記.
日本消化器外科学会学会誌 48: en7, 2015
2. 石田秀行, 石橋敬一郎.
がん治療認定医 教育セミナーテキスト (第10版) - 大腸癌 -

2016年4月以降掲載 (online含む) または in press 原著 (英文)

1. Ishibashi K, Kumamoto K, Koda K, Kato H, Nishimura G, Yoshimatsu K, Yokomizo H, Ooki S, Tanaka S, Asano M, Yokoyama M, Kawada T, Ishida H.
A Phase II Clinical Study of mFOLFOX6 /XELOX as Adjuvant Chemotherapy after Curative Resection of Stage III Colon Cancer: The FACOS Study.
Ann Cancer Res. Ther 24: 17-22, 2016
2. Matsuda C, Honda M, Tanaka C, Fukunaga M, Ishibashi K, Munemoto Y, Hata T, Bando H, Oshiro M, Kobayashi M, Tokunaga Y, Fujii A, Nagata N, Oba K, Mishima H.
Multicenter randomized phase II clinical trial of oxaliplatin reintroduction as a third-or later-line therapy for metastatic colorectal cancer-biweekly versus standard triweekly XELOX (The ORION Study).
Int J Clin Oncol 2016 Jun; 21(3): 566-72. doi: 10.1007/s10147-015-0911-7.
Epub 2015 Oct 16.

3. Kohda M, Kumamoto K, Eguchi H, Hirata T, Tada Y, Tanakaya K, Akagi K, Takenoshita S, Iwama T, Ishida H, Okazaki Y.
Rapid detection of germline mutations for hereditary gastrointestinal polyposis/cancers using HaloPlex target enrichment and high-throughput sequencing technologies.
Fam Cancer 15: 553–562, 2016
4. Inoue Y, Ishida H, Ueno H, Kobayashi H, Yamaguchi T, Konishi T, Tomita N, Matsubara N, Ishida F, Hinoi T, Kanemitsu Y, Watanabe T, Sugihara K.
Therapeutic approaches for patients with coexisting familial adenomatous polyposis and colorectal cancer.
Jpn J Clin Oncol 46: 819–824, 2016
5. Saito Y, Hinoi T, Ueno H, Kobayashi H, Konishi T, Ishida F, Yamaguchi T, Inoue Y, Kanemitsu Y, Tomita N, Matsubara N, Komori K, Kotake K, Nagasaka T, Hasegawa H, Koyama M, Ohdan H, Watanabe T, Sugihara K, Ishida H.
Risk Factors for the development of desmoid tumor after colectomy in patients with familial adenomatous polyposis: multicenter retrospective cohort study in Japan.
Ann Surg Oncol 23: 559–565, 2016
6. Konishi T, Ishida H, Ueno H, Kobayashi H, Hinoi T, Inoue Y, Ishida F, Kanemitsu Y, Yamaguchi T, Tomita N, Matsubara N, Watanabe T, Sugihara K.
Feasibility of laparoscopic total proctocolectomy with ileal pouch-anal anastomosis and total colectomy with ileorectal anastomosis for familial adenomatous polyposis: results of a nationwide multicenter study.
Int J Clin Oncol 21: 953–961, 2016
7. Tanakaya K, Yamaguchi T, Ishikawa H, Hinoi T, Furukawa Y, Hirata K, Saida Y, Shimokawa M, Arai M, Matsubara N, Tomita N, Tamura K, Sugano K, Ishioka C, Yoshida T, Ishida H, Watanabe T, Sugihara K.
Causes of cancer death among first-degree relatives in Japanese families with Lynch syndrome.
Anticancer Res 36: 1985–1989, 2016

8. Ueno H, Kobayashi H, Konishi T, Ishida F, Yamaguchi T, Hinoi T, Kanemitsu Y, Inoue Y, Tomita N, Matsubara N, Komori K, Ozawa H, Nagasaka T, Hasegawa H, Koyama M, Akagi Y, Yatsuoka T, Kumamoto K, Kurachi K, Tanakaya K, Yoshimatsu K, Watanabe T, Sugihara K, Ishida H. Prevalence of laparoscopic surgical treatment and its clinical outcomes in patients with familial adenomatous polyposis in Japan. *Int J Clin Oncol* 21: 713–722, 2016
9. Yamaguchi T, Ishida H, Ueno H, Kobayashi H, Hinoi T, Inoue Y, Ishida F, Kanemitsu Y, Konishi T, Tomita N, Matsubara N, Watanabe T, Sugihara K. Upper gastrointestinal tumours in Japanese familial adenomatous polyposis patients. *Jpn J Clin Oncol* 46: 310–315, 2016
10. Fukuchi M, Mochiki E, Ishiguro T, Ogura T, Sobajima J, Kumagai Y, Ishibashi K, Ishida H. Prognostic factors for gastric cancer with cancer cells in the peritoneal cavity. *Anticancer Res.* 36: 2481–2485, 2016
11. Fukuchi M, Mochiki E, Ishiguro T, Ogura T, Sobajima J, Kumagai Y, Ishibashi K, Ishida H. Improved efficacy by addition of protein-bound Polysaccharide K to adjuvant chemotherapy for advanced gastric cancer. *Anticancer Res.* 36: 4237–4241, 2016
12. Ishida H, Tajima Y, Gonda T, Kumamoto K, Ishibashi K, Iwama T. An update on the investigation of malignant tumors associated with Peutz-Jeghers syndrome in Japan. *Surg Today* 46: 1231–42, 2016
13. Kobayashi H, Ishida H, Ueno H, Hinoi T, Inoue Y, Ishida F, Kanemitsu Y, Konishi T, Yamaguchi T, Tomita N, Matsubara N, Watanabe T, Sugihara K. Childbirth after surgery for familial adenomatous polyposis in Japan. *Surg Today* 2016 Jun 29. (in press)

14. Kobayashi H, Ishida H, Ueno H, Hinoi T, Inoue Y, Ishida F, Kanemitsu Y, Konishi T, Yamaguchi T, Tomita N, Matsubara N, Watanabe T, Sugihara K. Association between the age and the development of colorectal cancer in patients with familial adenomatous polyposis: a multi-institutional study. Surg Today 2016 Aug 9. (in press)
15. Yamadera M, Ueno H, Kobayashi H, Konishi T, Ishida F, Yamaguchi T, Hinoi T, Inoue Y, Kanemitsu Y, Tomita N, Ishida H, Sugihara K. Current status of prophylactic surgical treatment for familial adenomatous polyposis in Japan. Surg Today 2016 Oct 21. (in press)
16. Kumagai Y, Ishiguro T, Sobajima J, Fukuchi M, Ishibashi K, Mochiki E, Kawano T, Ishida H. Factors affecting blood flow at the tip of the reconstructed gastric tube during esophagectomy: A study using indocyanine green fluorescence angiography. Int Surg (on line first)
17. Kumagai Y, Takubo K, Kawada K, Higashi M, Ishiguro T, Sobajima J, Fukuchi M, Ishibashi K, Mochiki E, Aida J, Kawano T, Ishida H. A newly developed continuous zoom-focus endocytoscope. Endoscopy (in press)

2016年4月以降掲載 原著（和文）

1. 上野秀樹, 石田秀行, 小林宏寿, 山口達郎, 石田文生, 檜井孝夫, 井上靖浩, 金光幸秀, 渡邊聡明, 杉原建一.
大腸癌研究会における家族性腺腫症（FAP）の診療指針の確立への取り組み.
家族性腫瘍 16 : 14-18, 2016
2. 田中屋宏爾, 古川洋一, 吉田輝彦, 山口達郎, 松原長秀, 平田敬治, 齊田芳久, 新井正美, 石川秀樹, 石岡千加史, 田村和朗, 菅野康吉, 富田尚裕, 石田秀行, 渡邊聡明, 杉原健一.
リンチ症候群に関する大腸癌研究会の活動と展望.
家族性腫瘍 16 : 19-22, 2016

3. 福地稔, 持木彫人, 石畝亨, 緒方杏一, 木村明春, 小倉俊郎, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 桑野博行, 石田秀行.
胃癌に対する最新の集学的治療 切除不能進行胃癌に対する conversion 治療.
消化器外科 39 : 1385-1392, 2016
4. 傍島潤, 幡野哲, 天野邦彦, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.
待機的結腸手術における術前機械洗浄を行わない予防抗菌薬投与.
日本外科感染症学会雑誌 13 : 301-305, 2016
5. 石橋敬一郎, 近範泰, 田島雄介, 傍島潤, 石畝亨, 大澤智徳, 横山勝, 中田博, 隈元謙介, 福地稔, 熊谷洋一, 持木彫人, 石田秀行.
直腸癌待期手術に対する周術期予防的抗菌薬短縮化に関するランダム化非劣性試験-サブセット解析による検討-.
日本外科感染症学会雑誌 13 : 307-312, 2016
6. 近範泰, 福地稔, 鈴木興秀, 伊藤徹哉, 山本梓, 石畝亨, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.
高齢者胃癌におけるミスマッチ修復蛋白発現欠失の頻度と特徴.
癌と化学療法 43 : 1298-1300, 2016
7. 小倉俊郎, 近範泰, 傍島潤, 石畝亨, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.
消化管ポリポーシスに対する外科治療.
INTESTINE 20 : 313-319, 2016
8. 石田秀行.
【遺伝性腫瘍-実地臨床での対応を目指して】家族性大腸腺腫症 (解説/特集).
日本医師会雑誌 145 : 715-719, 2016

2015年度 学会・研究会発表

国際学会

1. Saito S, Sekido H, Yoshida S, Isayama H, Matsuzawa T, Kuwai T, Maetani I, Shimada M, Yamada T, Tomita M, Koizumi K, Hirata N, Kanazawa H, Ikeda S, Konishi K, Hirakawa T, Kyo R, Enomoto T, Saida Y.
A prospective multicenter study of self-expandable metallic stents as a bridge to surgery for malignant colorectal obstruction in Japan: efficacy and safety in 313 patients.
17th Annual Meeting of the Society of American Gastrointestinal and Endoscopic Surgeons (SAGES 2015), Nashville, 2015.4.15-18 (Oral)
2. Watanabe Y, Baba H, Chika N, Matsuzawa T, Fukuchi M, Kumagai Y, Ishibashi K, Mchiki E, Iwama T, Ishida H.
Treatment strategy of multiple duodenal polyaposis associated with familial adenomatous polyposis using spigelman classification.
International society for gastrointestinal hereditary tumours-InSiGHT, San Paulo, 2015.5.19 (Poster)
3. Tanakaya K, Kohda M, Hirata T, Eguchi H, Suzuki O, Iwata T, Kumamoto K, Takenoshita S, Akagi K, Ishida H, Okazaki Y.
Clinical diagnosis of familial colorectal cancer by targeted resequencing.
International society for gastrointestinal hereditary tumours-InSiGHT, San Paulo, 2015.5.19 (Poster)
4. Kumagai Y, Ishiguro T, Fukuchi M, Ishibashi K, Kawano T, Ishida H, Mochiki E, Sobajima J.
Indocyanine green (ICG) fluorescence angiography for the reconstructed gastric tube during esophagectomy.
46th World Congress of Surgery WCS 2015, Bangkok, 2015.8.23-27 (Poster)
5. Kumagai Y, Ishiguro T, Fukuchi M, Ishibashi K, Mochiki E, Ishida H, Sobajima J, Matsuzawa T.
Coexpression of cox-2 and inos in angiogenesis of superficial esophageal squamous cell carcinoma.
46th World Congress of Surgery WCS 2015, Bangkok, 2015.8.23-27 (Poster)

6. Kumagai Y, Ishiguro T, Fukuchi M, Ishibashi K, Mochiki E, Ishida H, Sobajima J, Matsuzawa T.
Production of intraperitoneal interleukin-6 following open or laparoscopic assisted distal gastrectomy.
46th World Congress of Surgery WCS 2015, Bangkok, 2015.8.23-27 (Poster)
7. Kumagai Y, Sobajima J, Fukuchi M, Ishibashi K, Mochiki E, Ishida H, Kawada K, Takubo K.
Current status of the newly developed endocytoscope “GIF-Y0002” with reference to its diagnostic performance for common esophageal lesions.
46th World Congress of Surgery WCS 2015, Bangkok, 2015.8.23-27 (Poster)
8. Ishibashi K, Ishida H, Okada N, Amano T, Ohashi Y.
Liver resectin patients treated with first-line chemotherapy for metastatic colorectal cancer: Analysis of 2-year follow-up date from a Japanese cohort study(EMERaLD study).
18th ECCO-40th ESMO European Cancer Congress 2015, Vienna, 2015.9.25-29 (Poster)
9. Matsuzawa T, Ishida H, Yoshida S, Isayama H, Yamada T, Kuwai T, Saito S, Maetani I, Tomita M, Koizumi K, Hirata N, Kanazawa H, Ikeda S, Konishi K, Hirakawa T, Shimada M, Kobayashi S, Osuga T, Naota H , Obana N, Yamauchi A, Yamagishi S, Takayasu K, Saida Y.
Analyses of factors associated with the clinical success of stent placement in patients with malignant colorectal obstruction.
15th Asia Pacific Federati Coloproctology Congress (APFCP), Melbourne, 2015.10.5-7 (Oral)
10. Matsuzawa T, Ishida H, Yamada T, Tomita M, Yoshida S, Isayama H, Maetani I, Kyo R, Sumida Y, Kuwai T, Hirata N, Kushiyaama Y, Yoshikawa M, Saito S, Saida Y.
A prospective multicenter study of self-expandable metallic stent placement as a bridge to surgery for malignant colorectal obstruction in Japan: feasibility in 112 cases.
23rd United European Gastroenterology Annual Meeting, Barcelona, 2015.10.24-28 (Poster)

11. Tamagawa H, Uetake H, Ishiguro M, Mizunuma N, Kinugasa Y, Mochizuki I, Hamaguchi T, Hasegawa J, Katsumata K, Ishibashi K, Ogata Y, Takii Y, Ooshiro M, Kagimura T, Sugihara K.
A multicenter phase II trial of mFOLFOX6 plus bevacizumab as treatment for liver-only metastases from colorectal cancer unsuitable for upfront resection (TRICC0808): Final analysis for survival.
ASCO-GI 2016, San Francisco, 2016.1.21-23 (Poster)

国内学会・研究会

1. 石橋敬一郎, 幡野哲, 松澤岳晃, 隈元謙介, 福地稔, 熊谷洋一, 長田久人, 持木彫人, 石田秀行.
切除不能・再発大腸癌肝転移に対する新規抗がん剤治療と造影CTによる形態学的評価.
第115回日本外科学会定期学術集会, 名古屋, 2015.4.16-18 (口演)
2. 鈴木興秀, 福地稔, 近範泰, 田島雄介, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行, 岩間毅夫, 江口英孝, 岡崎康司, 隈元謙介.
50歳未満大腸癌におけるリンチ症候群のスクリーニング: ミスマッチ修復タンパクに対する免疫染色の有用性と臨床応用.
第115回日本外科学会定期学術集会, 名古屋, 2015.4.16-18 (口演)
3. 渡辺雄一郎, 馬場裕之, 松澤岳晃, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 岩間毅夫, 石田秀行.
家族性大腸腺腫症に合併する十二指腸ポリポシスのSpigelman分類に基づく治療戦略.
第115回日本外科学会定期学術集会, 名古屋, 2015.4.16-18 (口演)
4. 管隼人, 山田岳史, 船橋公彦, 小池淳一, 吉松和彦, 横溝肇, 石田秀行, 石橋敬一郎, 斉田芳久, 榎本俊行, 勝又健次, 長谷川博俊, 幸田圭史, 落合匠, 坂本一博, 小川匠, 小泉岐博, 内田英二, 板橋道朗, 亀岡信悟.
T3またはT4のStage II/III直腸癌に対する術前化学療法としてのmFOLFOX6療法の有効性及び安全性の検討.
第115回日本外科学会定期学術集会, 名古屋, 2015.4.16-18 (口演)

5. 宮崎達也, 宗田真, 酒井真, 横堀武彦, 熊倉裕二, 本城裕章, 原圭吾, 小澤大吾, 鈴木茂正, 田中成高, 佐野彰彦, 家田敬輔, 福地稔, 尾嶋仁, 桑野博行.
食道癌ハイリスク症例に対するリスク評価と手術適応.
第115回日本外科学会定期学術集会, 名古屋, 2015.4.16-18 (パネルディスカッション)
6. 豊増嘉高, 鈴木雅貴, 矢野間透, 木村明春, 木暮憲道, 緒方杏一, 大野哲郎, 持木彫人, 桑野博行.
食道胃接合部早期癌に対する腹腔鏡補助下噴門側胃切除術, 胃管再建に関する工夫とその成績-消化管運動機能評価に着目して-.
第115回日本外科学会定期学術集会, 名古屋, 2015.4.16-18 (口演)
7. 木暮憲道, 矢野間透, 木村明春, 鈴木雅貴, 渡辺亮, 豊増嘉高, 緒方杏一, 持木彫人, 桑野博行.
成犬を用いた十二指腸切離後における消化管運動の検討.
第115回日本外科学会定期学術集会, 名古屋, 2015.4.16-18 (口演)
8. 石田秀行, 岩間毅夫, 杉原健一.
大腸癌研究会における遺伝子大腸癌のデータベース.
第101回日本消化器病学会総会, 仙台, 2015.4.23-25 (シンポジウム)
9. 鈴木興秀, 隈元謙介, 近範泰, 松澤岳晃, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行, 赤木究.
50歳未満大腸癌におけるMSI-Hの組織像-リンチ症候群のスクリーニングの観点から-.
第36回癌免疫外科研究会, 奄美, 2015.5.14-15 (口演)
10. 福地稔, 持木彫人, 石畝亨, 鈴木興秀, 緒方杏一, 木村明春, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 石田秀行, 桑野博行.
切除不能胃癌に対するconversion surgeryのタイミングと後治療.
第69回手術手技研究会, 高崎, 2015.5-15-16 (サージカルフォーラム)

11. 松澤岳晃, 石田秀行, 吉田俊太郎, 伊佐山浩通, 寺石文則, 大木岳志, 加藤博之, 林史郎, 吉満政義, 坂本琢, 山口拓也, 吉川雅輝, 堀松高博, 遠藤俊吾, 堀本雅祥, 真崎茂法, 牛込充則, 猪股雅史, 窪田賢輔, 中村寧, 齊田芳久.
本邦の大腸ステント臨床的不成功に関わる因子の検討: 多施設共同研究.
第89回日本消化器内視鏡学会総会, 名古屋, 2015.5.29-31 (プレナリーセッション)
12. 石橋敬一郎, 田島雄介, 近範泰, 鈴木興秀, 渡辺雄一郎, 松澤岳晃, 福地稔, 熊谷洋一, 持木彫人, 岩間毅夫, 石田秀行.
女性Peutz-Jeghers症候群における悪性腫瘍のリスクの検討-本邦報告書から-.
第21回日本家族性腫瘍学会学術集会, さいたま, 2015.6.5-6 (ポスター)
13. 田島雄介, 隈元謙介, 鈴木興秀, 田彗祐喜, 江口英孝, 岡崎康司, 立川哲彦, 赤木究, 石橋敬一郎, 石田秀行.
SKT11のエクソン7に欠失を認めたPeutz-Jeghersの1例.
第21回日本家族性腫瘍学会学術集会, さいたま, 2015.6.5-6 (ポスター)
14. 近範泰, 鈴木興秀, 岡田洋平, 山田拓己, 田彗祐喜, 江口英孝, 岡崎康司, 立川哲彦, 赤木究, 石田秀行.
腎盂・尿管癌に対するスクリーニングから同定し得たリンチ症候群の1例.
第21回日本家族性腫瘍学会学術集会, さいたま, 2015.6.5-6 (ポスター)
15. 渡辺雄一郎, 馬場裕之, 松澤岳晃, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 岩間毅夫, 石田秀行, 石川秀樹.
家族性大腸腺腫症に随伴する十二指腸ポシポーシスに対する腓温存全十二指腸切除術.
第21回日本家族性腫瘍学会学術集会, さいたま, 2015.6.5-6 (サージカルセッション)
16. 三口真司, 檜井孝夫, 服部稔, 大段秀樹, 田中屋宏爾, 山口達郎, 古川洋一, 吉田輝彦, 田村和朗, 菅野康吉, 石岡千加史, 松原長秀, 富田尚裕, 新井正美, 石川秀樹, 平田敬治, 齊田芳久, 渡邊聡明, 杉原健一, 石田秀行.
リンチ症候群患者における大腸癌の若年(50歳未満)発症リスク因子の検討 多施設共同研究「HNPCCの登録と遺伝子解析プロジェクト」.
第21回日本家族性腫瘍学会学術集会, さいたま, 2015.6.5-6 (示説)

17. 栗原泰幸, 桑原博, 三浦富之, 米倉孝治, 渡辺雄一郎, 真田貴弘, 中村典明, 五関謹秀, 石田秀行.
APC 遺伝子変異が検出されなかった AFAP の 1 例.
第 21 回日本家族性腫瘍学会学術集会, さいたま, 2015.6.5-6 (示説)
18. 田中屋宏爾, 隈元謙介, 神田将和, 鈴木興秀, 赤木究, 田中屋宏爾, 江口英孝, 岡崎康司, 竹之下誠一, 石田秀行.
次世代シーケンサーを用いた遺伝性大腸癌の遺伝学的検査の確立に向けて.
第 21 回日本家族性腫瘍学会学術集会, さいたま, 2015.6.5-6 (要望演題, 口演)
19. 檜井孝夫, 三口真司, 服部稔, 大段秀樹, 田中屋宏爾, 山口達郎, 古川洋一, 吉田輝彦, 田村和朗, 菅野康吉, 石岡千加史, 松原長秀, 富田尚裕, 新井正美, 石川秀樹, 平田敬治, 斉田芳久, 渡邊聡明, 杉原健一, 石田秀行.
リンチ症候群における MLH1, MSH2 の遺伝子変異と表現型についての検討
多施設共同研究「HNPCC の登録と遺伝子解析プロジェクト」.
第 21 回日本家族性腫瘍学会学術集会, さいたま, 2015.6.5-6 (要望演題, 口演)
20. 田中屋宏爾, 古川洋一, 吉田輝彦, 山口達郎, 松原長秀, 平田敬治, 斉田芳久, 新井正美, 石川秀樹, 石岡千加史, 田村和朗, 菅野康吉, 富田尚裕, 渡邊聡明, 杉原健一, 石田秀行.
わが国の家族性腫瘍の診療 未来への提言 リンチ症候群に関する大腸癌研究会の活動と展望.
第 21 回日本家族性腫瘍学会学術集会, さいたま, 2015.6.5-6 (シンポジウム)
21. 上野秀樹, 石田秀行, 小林宏寿, 山口達郎, 小西毅, 石田文生, 檜井孝夫, 井上靖浩, 金光幸秀, 杉原健一.
わが国の家族性腫瘍の診療 未来への提言 大腸癌研究会における家族性大腸腺腫症 (FAP) の診療指針確立への取り組み.
第 21 回日本家族性腫瘍学会学術集会, さいたま, 2015.6.5-6 (シンポジウム)
22. 石川葵, 松澤岳晃, 平岡優, 田島雄介, 近範泰, 鈴木興秀, 傍島潤, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.
急速に増大した家族性大腸腺腫症に合併したデスマイド腫瘍の 1 例.
第 837 回外科集談会, 東京, 2015.6.13 (口演)

23. 佐野元彦, 石橋敬一郎, 石田秀行, 岸野亨.
外来での大腸がん化学療法における副作用対策－薬剤師の立場から－.
第40回日本外科系連合学会学術集会, 東京, 2015.6.18-19 (口演)
24. 近範泰, 福地稔, 山本梓, 田島雄介, 鈴木興秀, 松澤岳晃, 石畝亨, 熊谷洋一, 持木彫人, 石田秀行.
多発性大腸癌を伴った若年者潰瘍性大腸炎の1例.
第40回日本外科系連合学会学術集会, 東京, 2015.6.18-19 (示説)
25. 熊谷洋一, 川田研郎, 石田秀行, 河野辰幸, 田久保海誉.
エンドサイトスコピーシステム (ECS) で観察する食道炎の特徴.
第43回日本潰瘍学会, 2015, 宜野湾, 6.19-20 (スポンサードシンポジウム)
26. 福地稔, 持木彫人, 石畝亨, 鈴木興秀, 緒方杏一, 木村明春, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 石田秀行, 桑野博行.
切除不能胃癌に対する conversion surgery の治療成績.
第24回日本癌病態治療研究会, 栃木, 2015.6.25-26 (パネルディスカッション)
27. 近範泰, 石橋敬一郎, 幡野哲, 牟田優, 伊藤徹哉, 田島雄介, 天野邦彦, 鈴木興秀, 松澤岳晃, 石畝亨, 崎元雄彦, 福地稔, 持木彫人, 石田秀行.
新規抗がん剤時代における大腸癌同時性腹膜播種に対する外科治療の意義.
第83回大腸癌研究会, 福岡, 2015.7.3 (口演)
28. 鈴木興秀, 近範泰, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行, 江口英孝.
早期結腸癌を合併した Serrated polyposis syndrome の1例.
第83回大腸癌研究会, 福岡, 2015.7.3 (示説)
29. 熊谷洋一, 傍島潤, 石畝亨, 松澤岳晃, 福地稔, 石橋敬一郎, 持木彫人, 河野辰幸, 石田秀行.
ICG 蛍光法を用いた食道-胃管吻合部の血流に影響を及ぼす因子の検討.
第69回日本食道学会学術集会, 横浜, 2015.7.2-3 (パネルディスカッション)

30. 福地稔, 持木彫人, 石畝亨, 鈴木興秀, 傍島潤, 斎藤加奈, 内藤浩, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 石田秀行.
食道胃接合部癌根治切除例の予後因子の検討.
第69回日本食道学会学術集会, 横浜, 2015.7.2-3 (示説)
31. 山野貴史, 高橋健夫, 西村敬一郎, 上野周一, 長田久人, 石畝亨, 傍島潤, 熊谷洋一, 持木彫人, 石田秀行.
当施設における T4 食道癌に対する放射線治療成績.
第69回日本食道学会学術集会, 横浜, 2015.7.2-3 (示説)
32. 石橋敬一郎, 渡辺雄一郎, 近範泰, 田島雄介, 鈴木興秀, 松澤岳晃, 隈元謙介, 福地稔, 熊谷洋一, 馬場裕之, 持木彫人, 岩間毅夫, 石田秀行.
家族性大腸腺腫症に合併した子宮内膜癌, 卵巣癌, 十二指腸癌の 1 例.
第37回日本癌局所療法研究会, 幕張, 2015.7.10 (口演)
33. 田島雄介, 隈元謙介, 山本梓, 近範泰, 渡辺雄一郎, 松澤岳晃, 石橋敬一郎, 持木彫人, 岩間毅夫, 赤木究, 石田秀行.
家族性大腸腺腫症に合併した異時性/同時性多発甲状腺乳頭癌の 1 例.
第37回日本癌局所療法研究会, 幕張, 2015.7.10 (口演)
34. 田島雄介, 幡野哲, 石橋敬一郎, 近範泰, 小野澤寿志, 松澤岳晃, 持木彫人, 山口研成, 赤木究, 岩間毅夫, 石田秀行.
粘膜内癌に全周性の粘膜切除を施行した家族性大腸腺腫症の 1 例.
第37回日本癌局所療法研究会, 幕張, 2015.7.10 (口演)
35. 伊藤徹哉, 斉藤勝, 近谷賢一, 平岡優, 田島雄介, 近範泰, 天野邦彦, 石畝亨, 小林祐介, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 隈元謙介, 大木進司, 石田秀行.
内臓逆位に合併した消化器癌に対して腹腔鏡下手術を行った 2 例.
第37回日本癌局所療法研究会, 幕張, 2015.7.10 (口演)
36. 近範泰, 鈴木興秀, 山本梓, 田島雄介, 渡辺雄一郎, 小野澤寿志, 松澤岳晃, 石畝亨, 崎元雄彦, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.
回腸人工肛門周囲に発生した FAP 合併デスマイド腫瘍の 1 例.
第37回日本癌局所療法研究会, 幕張, 2015.7.10 (口演)

37. 近範泰, 鈴木興秀, 山本梓, 今泉英子, 田島雄介, 小野澤寿志, 松澤岳晃, 石畝亨, 崎元雄彦, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.
MSH6 遺伝子の生殖細胞系列変異を有する Lynch 症候群 1 家系.
第 37 回日本癌局所療法研究会, 幕張, 2015.7.10 (口演)
38. 鈴木興秀, 近範泰, 福地稔, 隈元謙介, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 江口英孝, 持木彫人, 石田秀行.
MSI-H と MSH2 タンパク欠失を認めた横行結腸を合併した FAP の 1 例.
第 37 回日本癌局所療法研究会, 幕張, 2015.7.10 (口演)
39. 鈴木興秀, 近範泰, 青柳治彦, 東守洋, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 江口英孝, 田丸淳一, 持木彫人, 石田秀行.
早期結腸癌を合併した Serrated polypoid syndrome の 1 例.
第 37 回日本癌局所療法研究会, 幕張, 2015.7.10 (口演)
40. 小野澤寿志, 松澤岳晃, 石畝亨, 傍島潤, 隈元謙介, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.
Stage IV 大腸癌穿孔症例に対する化学療法の効果.
第 37 回日本癌局所療法研究会, 幕張, 2015.7.10 (口演)
41. 小野澤寿志, 松澤岳晃, 石畝亨, 傍島潤, 隈元謙介, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.
Stage III 大腸癌穿孔症例の治療の現状と問題点.
第 37 回日本癌局所療法研究会, 幕張, 2015.7.10 (口演)
42. 渡辺雄一郎, 馬場裕之, 傍島潤, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行, 石川秀樹.
小切開下に脾温存全十二指腸切除術を施行した FAP の 1 例.
第 37 回日本癌局所療法研究会, 幕張, 2015.7.10 (口演)
43. 渡辺雄一郎, 馬場裕之, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行, 石川秀樹.
家族性大腸腺腫症に合併した十二指腸神経内分泌腫瘍の 1 切除例.
第 37 回日本癌局所療法研究会, 幕張, 2015.7.10 (口演)

44. 渡辺雄一郎, 松澤岳晃, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.
直腸癌の側方リンパ節転移と鑑別を要した神経鞘腫の1例.
第37回日本癌局所療法研究会, 幕張, 2015.7.10 (口演)
45. 中島日出夫, 上野聡一郎, 幸田圭史, 吉松和彦, 田中荘一, 大木進司, 前川博, 小林道也, 石橋敬一郎, 石田秀行.
Multicenter phase II trial of postoperative adjuvant chemotherapy with mFOLFOX6/ XELOX for stage III colon cancer.
FACOS 試験: Stage III 結腸治癒切除例に対する補助化学療法としての mFOLFOX6/ XELOX の臨床第II相試験.
第13回日本臨床腫瘍学会学術集会, 札幌, 2015.7.16-18 (示説)
46. 持木彫人, 石畝亨, 今泉英子, 小野澤寿志, 鈴木興秀, 傍島潤, 熊谷洋一, 福地稔, 石田秀行.
腹腔鏡補助下幽門側胃切除術における迷走神経腹腔鏡枝温存は機能温存に有効か? .
第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015.7.15-17 (ワークショップ)
47. 熊谷洋一, 傍島潤, 石畝亨, 松澤岳晃, 福地稔, 石橋敬一郎, 持木彫人, 河野辰幸, 石田秀行.
蛍光PDE法を用いた食道癌手術中再建胃管の血流評価法 (評価のパラメータと胃管作成法の考察).
第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015.7.15-17 (口演)
48. 福地稔, 持木彫人, 石畝亨, 鈴木興秀, 今泉英子, 近範泰, 傍島潤, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 石田秀行.
P1およびCY1胃癌の外科治療の意義.
第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015.7.15-17 (口演)
49. 石畝亨, 福地稔, 鈴木興秀, 緒方杏一, 木村明春, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 石田秀行, 桑野博行, 持木彫人.
切除不能胃癌に対する conversion surgery 後の治療方針.
第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015.7.15-17 (口演)

50. 松澤岳晃, 幡野哲, 渡辺雄一郎, 石畝亨, 福地稔, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.
下部直腸癌に対する術前側方リンパ節診断能の理論的根拠と予防的側方郭清の妥当性.
第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015.7.15-17 (口演)
51. 田島雄介, 松澤岳晃, 山本梓, 近範泰, 小野澤寿志, 石畝亨, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.
閉塞性左側大腸癌に対するステント留置の有用性: (準) 緊急手術との比較.
第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015.7.15-17 (口演)
52. 鈴木興秀, 隈元謙介, 近範泰, 東守洋, 神田将和, 江口英孝, 岡崎康司, 田丸淳一, 赤木究, 石田秀行.
50歳未満大腸癌におけるミスマッチ修復タンパクの免疫染色を用いたリンチ症候群のスクリーニングの意義.
第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015.7.15-17 (口演)
53. 渡辺雄一郎, 馬場裕之, 松澤岳晃, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 岩間毅夫, 田邊稔, 石田秀行.
家族性大腸腺腫症に随伴する十二指腸ポリポーシスに対する治療戦略.
第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015.7.15-17 (口演)
54. 小野澤寿志, 松澤岳晃, 石畝亨, 傍島潤, 隈元謙介, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.
穿孔が大腸癌の予後に与える影響: Case-match study.
第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015.7.15-17 (口演)
55. 田中屋宏爾, 山口達郎, 石田秀行, 平田敬治, 斉田芳久, 松原長秀, 富田尚裕, 森谷亘皓, 渡邊聡明, 杉原健一.
日本人における家族性大腸癌 typeX と Lynch 症候群の比較検討.
第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015.7.15-17 (口演)
56. 梶原由規, 上野秀樹, 小林宏寿, 小西毅, 石田文生, 山口達郎, 檜井孝夫, 井上靖浩, 金光幸秀, 石田秀行.
大腸癌を伴った家族性大腸腺腫症に対する外科的治療の経年的変化に関する検討.
第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015.7.15-17 (口演)

57. 齋藤保文, 檜井孝夫, 上野秀樹, 金光幸秀, 井上靖浩, 小西毅, 小林宏寿, 山口達郎, 石田文生, 石田秀行.
Familial Adenomatous Polyposis (FAP) 関連アスモイド発生のリスク因子と大腸切除術におけるストラテジー.
第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015.7.15-17 (口演)
58. 山寺勝人, 上野秀樹, 小林宏寿, 小西毅, 石田文生, 山口達郎, 檜井孝夫, 井上靖浩, 金光幸秀, 石田秀行.
本邦における家族性大腸腺腫症に対する予防的大腸切除の現状.
第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015.7.15-17 (口演)
59. 石崎康代, 檜井孝夫, 上野秀樹, 金光幸秀, 井上靖浩, 小西毅, 小林宏寿, 山口達郎, 石田文生, 石田秀行.
FAPにおける甲状腺癌のリスク因子.
第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015.7.15-17 (口演)
60. 山口達郎, 上野秀樹, 田中屋宏爾, 岩間毅夫, 宇都宮讓二, 杉原健一, 石田秀行.
本邦における遺伝性大腸癌のデータベース構築事業.
第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015.7.15-17 (口演)
61. 浅野道雄, 田中莊一, 幸田圭史, 吉松和彦, 加藤良二, 加藤広行, 額額真一郎, 西村元一, 石橋敬一郎, 石田秀行.
Stage III 結腸癌治療切除例に対する補助化学療法としてのmFOLFOX6/XELOXの臨床第II相試験:安全性について.
第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015.7.15-17 (口演)
62. 緒方杏一, 豊増嘉高, 鈴木雅貴, 木暮憲道, 木村明春, 持木彫人, 桑野博行.
再発・転移GISTに対してイマチニブを使用した41例の長期成績・多施設GIST集積研究から.
第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015.7.15-17 (パネルディスカッション)
63. 木村明春, 木暮憲道, 矢野間透, 鈴木雅貴, 豊増嘉高, 緒方杏一, 大野哲郎, 持木彫人, 桑野博行.
術後病理診断で進行胃癌と診断された腹腔鏡下胃癌手術患者の検討.
第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015.7.15-17 (口演)

64. 木暮憲道, 矢野間透, 木村明春, 渡辺亮, 鈴木雅貴, 豊増嘉高, 緒方杏一, 持木彫人, 桑野博行.
成犬を用いた十二指腸切離後における消化管運動の検討.
第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015.7.15-17 (口演)
65. 石崎哲央, 勝又健次, 船橋公彦, 吉松和彦, 菅隼人, 石田秀行, 長谷川博俊, 幸田圭史, 板橋道朗, 亀岡信悟.
T3またはT4のStage II/Ⅲ直腸癌に対する術前化学療法としてのmFOLFOX6療法の有効性および安全性の検討.
第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015.7.15-17 (口演)
66. 牟田優, 石畝亨, 伊藤徹哉, 近範泰, 今泉英子, 山本梓, 福地稔, 持木彫人, 石田秀行.
興味ある食道潰瘍の1例.
第18回埼玉県外科医会外科臨床問題検討会, さいたま, 2015.7.15 (口演)
67. 大室美紀, 崎元雄彦, 井上嘉余子, 室谷孝志, 徳山美奈子, 山田博文, 小高明雄.
当院における栄養サポートチーム活動の取り組み.
第8回日本保健医療福祉連携教育学会学術集会, 東京, 2015.8.9 (口演)
68. 石橋敬一郎, 近範泰, 田島雄介, 鈴木興秀, 松澤岳晃, 隈元謙介, 福地稔, 熊谷洋一, 持木彫人, 石田秀行.
大腸癌術後補助化学療法としてのmFOLFOX6, CapeOX療法.
第13回日本消化器外科学会大会, 東京, 2015.10.8-11 (示説)
69. 熊谷洋一, 川田研郎, 石畝亨, 河野辰幸, 石田秀行, 持木彫人, 石橋敬一郎, 福地稔, 傍島潤, 松澤岳晃, 田久保海誉.
エンドサイトスコピーシステム (ECS) の到達点と将来展望.
第90回日本消化器内視鏡学会総会, 東京, 2015.10.8-11 (示説)
70. 鈴木興秀, 石橋敬一郎, 近範泰, 石畝亨, 福地稔, 熊谷洋一, 持木彫人, 石田秀行.
切除不能再発小腸癌に対する oxaliplatin base 療法の検討.
第13回日本消化器外科学会大会, 東京, 2015.10.8-11 (示説)

71. 崎元雄彦.
Narrative-Based Medicineにより複雑悲嘆の改善を認めた1例.
第39回日本死の臨床研究会年次大会, 岐阜, 2015.10.11-12 (示説)
72. 西村敬一郎, 高橋健夫, 石橋敬一郎, 隈元謙介, 松澤岳晃, 幡野哲, 村田修, 本戸幹人, 山野貴史, 上野周一, 石田秀行.
当院における肛門機能温存を目指した局所進行部直腸癌に対する術前化学放射線療法.
第53回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2015.10.15 (示説)
73. 石橋敬一郎, 近範泰, 田島雄介, 鈴木興秀, 松澤岳晃, 隈元謙介, 福地稔, 熊谷洋一, 佐野元彦, 持木彫人, 石田秀行.
大腸癌術後補助化学療法としてのoxaliplatin(oxa)-base治療における末梢神経障害.
第53回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2015.10.29-31 (示説)
74. 近範泰, 鈴木興秀, 伊藤徹哉, 青木志津子, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 石田秀行.
日本人高齢者大腸癌のミスマッチ修復タンパク欠失の特徴.
第53回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2015.10.29-31 (示説)
75. 鈴木興秀, 立川哲彦, 近範泰, 伊藤徹哉, 隈元謙介, 岡田洋平, 諸角誠人, 川上理, 山田拓己, 石田秀行.
免疫染色を用いた腎盂尿管癌におけるリンチ症候群のスクリーニングの試み.
第53回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2015.10.29-31 (ワークショップ)
76. 鈴木興秀, 近範泰, 立川哲彦, 隈元謙介, 松澤岳晃, 江口英孝, 赤木究, 三鍋俊春, 伊崎誠一, 石田秀行.
ミスマッチ修復タンパクの免疫染色によるMuir-Torre症候群のスクリーニング.
第53回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2015.10.29-31 (ワークショップ)
77. 佐野元彦, 中山季昭, 島田ひろ美, 須山孝雪, 中村めぐみ, 茂木美穂, 石橋敬一郎, 石田秀行, 岸野亨.
アントラサイクリン系薬剤の欠陥外漏出でデクスラゾキサンの要否判定を必要とした2例.
第53回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2015.10.29-31 (示説)

78. 西村敬一郎, 高橋健夫, 石橋敬一郎, 隈元謙介, 松澤岳晃, 幡野哲, 村田修, 本戸幹人, 山野貴史, 上野周一, 石田秀行.
当院における肛門機能温存を目指した局所進行下部直腸癌に対する術前化学放射線療法.
第53回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2015.10.29-31 (示説)
79. 藤野優子, 長谷部陽子, 前川郁美, 布谷玲子, 小峰和美, 松崎正子, 島田ひろ美, 野元彦, 五十嵐友里, 大賀公子, 阿部恵美, 吉田和代, 儀賀理暁, 高橋健夫, 石田秀行.
がんサロン「がん患者・家族の会」の意義と課題; 参加者に対するアンケートによる調査.
第53回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2015.10.29-31 (示説)
80. 小林宏寿, 石田秀行, 上野秀樹, 石田文生, 井上靖浩, 金光幸秀, 小西毅, 檜井孝夫, 山口達郎, 富田尚裕, 松原長秀, 渡邊聡明, 杉原健一.
家族性大腸腺腫症における癌の発生・進展と表現型との相関に関する後方視的観察研究.
第53回日本癌治療学会学術集会, 京都, 2015.10.29-31 (示説)
81. 石畝亨, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 石田秀行, 持木彫人.
切除不能胃癌に対する conversion surgery の問題点.
第45回胃外科・術後障害研究会, 名古屋, 2015.11.6-7 (要望演題, 口演)
82. 持木彫人, 石畝亨, 傍島潤, 熊谷洋一, 福地稔, 石田秀行.
噴門側胃切除術後の逆流性食道炎は再建腸管収縮機能が関係する.
第45回胃外科・術後障害研究会, 名古屋, 2015.11.6-7 (口演)
83. 持木彫人, 石畝亨, 福地稔, 石田秀行.
新規実験動物スunksによる消化管運動研究の可能性と漢方の作用.
第17回日本神経消化器病学会, 第9回機能性ディスペプシア研究会, 第83回消化器心身医学研究会, 第5回IBS研究会, 合同学術集会2015, 恩納, 2015.11.12-13 (口演)

84. 傍島潤, 伊藤徹哉, 近範泰, 天野邦彦, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.
FAP/UCに対する大腸全摘回腸囊肛門吻合術後の排便コントロール: 塩酸ロペラミド, ポリカルボフォルカルシウムの使用状況.
第17回日本神経消化器病学会, 第9回機能性ディスペプシア研究会, 第83回消化器心身医学研究会, 第5回IBS研究会, 合同学術集会2015, 恩納, 2015.11.12-13 (口演).
85. 石橋敬一郎, 近範泰, 鈴木興秀, 田島雄介, 松澤岳晃, 傍島潤, 福地稔, 熊谷洋一, 石田秀行.
ミスマッチ修復蛋白質欠失症例に対する転移巣切除不能大腸癌Stage IVに対するoxaliplatin-base療法の治療効果.
第70回日本大腸肛門病学会学術集会, 名古屋, 2015.11.13-14 (口演)
86. 近範泰, 鈴木興秀, 牟田優, 伊藤徹哉, 山本梓, 松澤岳晃, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 石田秀行.
高齢者大腸癌のミスマッチ修復タンパク欠失の特徴.
第70回日本大腸肛門病学会学術集会, 名古屋, 2015.11.13-14 (口演)
87. 近範泰, 鈴木興秀, 牟田優, 伊藤徹哉, 山本梓, 松澤岳晃, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 石田秀行.
1100症例からの遺伝性大腸癌スクリーニング (免疫染色法について).
第70回日本大腸肛門病学会学術集会, 名古屋, 2015.11.13-14 (口演)
88. 伊藤徹哉, 鈴木興秀, 近範泰, 隈元謙介, 石田秀行.
リンチ症候群関連腎盂・尿管がんスクリーニング.
第70回日本大腸肛門病学会学術集会, 名古屋, 2015.11.13-14 (口演)
89. 牟田優, 傍島潤, 大澤智徳, 竹内幾也, 石田秀行.
異時性に甲状腺癌と卵管癌を生じた家族性大腸腺腫症 (FAP) の1例.
第70回日本大腸肛門病学会学術集会, 名古屋, 2015.11.13-14 (口演)
90. 牟田優, 鈴木興秀, 近範泰, 石田秀行.
MSH6遺伝子に変異を認めたLynch症候群の2家系3例.
第70回日本大腸肛門病学会学術集会, 名古屋, 2015.11.13-14 (口演)

91. 鈴木興秀, 松澤岳晃, 近範泰, 隈元謙介, 石橋敬一郎, 石田秀行.
ミスマッチ修復タンパクの免疫染色による Muir-Torre 症候群の検索と本邦報告例との検討.
第70回日本大腸肛門病学会学術集会, 名古屋, 2015.11.13-14 (口演)
92. 大澤智徳, 石橋敬一郎, 田島雄介, 近範泰, 天野邦彦, 石田秀行.
超高齢者の直腸脱に対し, Thiersch手術にALTAによる直腸硬化療法を併用した7例の治療成績.
第70回日本大腸肛門病学会学術集会, 名古屋, 2015.11.13-14 (要望演題)
93. 鈴木興秀, 隈元謙介, 近範泰, 石橋敬一郎, 石田秀行.
EPCAM病的変異を原因とするリンチ症候群の1例.
第70回日本大腸肛門病学会学術集会, 名古屋, 2015.11.13-14 (示説)
94. 田島雄介, 近範泰, 松澤岳晃, 大澤智徳, 石橋敬一郎, 石田秀行.
痔核結紮切除術に対する日帰り手術と入院手術の比較検討.
第70回日本大腸肛門病学会学術集会, 名古屋, 2015.11.13-14 (口演)
95. 松澤岳晃, 近範泰, 田島雄介, 鈴木興秀, 傍島潤, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 石田秀行.
当科における閉塞性大腸癌に対するステント治療の成績.
第70回日本大腸肛門病学会学術集会, 名古屋, 2015.11.13-14 (要望演題)
96. 田中屋宏爾, 山口達郎, 永坂岳司, 檜井孝夫, 富田尚裕, 渡邊聡明, 杉原健一, 石田秀行.
日本人Lynch症候群における癌死因に関する検討: 日本大腸癌研究会多施設共同研究.
第70回日本大腸肛門病学会学術集会, 名古屋, 2015.11.13-14 (口演)
97. 吉松和彦, 石橋敬一郎, 横溝肇, 成高義彦, 幸田圭史, 瀬瀬真一郎, 椿昌裕, 横山勝, 田中屋宏爾, 石田秀行.
Stage III 結腸癌治癒切除例に対する補助化学療法としてのmFOLFOX6/XELOXの臨床第II相試験: 安全性について (FACOS study).
第70回日本大腸肛門病学会学術集会, 名古屋, 2015.11.13-14 (シンポジウム)

98. 山口達郎, 上野秀樹, 小林宏寿, 小西毅, 石田文夫, 檜井孝夫, 井上靖浩, 金光幸秀, 小山基, 渡邊聡明, 杉原健一, 富田尚裕, 小森康司, 固武健二郎, 永坂岳司, 長谷川博俊, 石田秀行.
家族性大腸腺腫症における上部消化管病変.
第70回日本大腸肛門病学会学術集会, 名古屋, 2015.11.13-14 (口演)
99. 山寺勝人, 上野秀樹, 小林宏寿, 小西毅, 石田文生, 山口達郎, 檜井孝夫, 井上靖浩, 金光幸秀, 富田尚裕, 小森康司, 固武健二郎, 永坂岳司, 長谷川博俊, 小山基, 渡邊聡明, 杉原健一, 石田秀行.
本邦における家族性大腸腺腫症に対する腹腔鏡下大腸切除の現状.
第70回日本大腸肛門病学会学術集会, 名古屋, 2015.11.13-14 (口演)
100. 井上靖浩, 上野秀樹, 小林宏寿, 小西毅, 石田文生, 山口達郎, 檜井孝夫, 金光幸秀, 富田尚裕, 小森康司, 固武健二郎, 永坂岳司, 長谷川博俊, 小山基, 渡邊聡明, 杉原健一, 楠正人, 石田秀行.
本邦における家族性大腸腺腫症を背景とした大腸癌治療の現状.
第70回日本大腸肛門病学会学術集会, 名古屋, 2015.11.13-14 (主題関連・口演)
101. 近範泰, 伊藤徹哉, 小倉俊郎, 天野邦彦, 石畝亨, 福地稔, 石橋敬一郎, 持木彫人, 岩間毅夫, 石田秀行.
当科における家族性大腸腺腫症に対する術式と術後サーベイランス.
第3回日本家族性大腸腺腫症研究会学術集会, 東京, 2015.11.19 (口演)
102. 熊谷洋一, 傍島潤, 石畝亨, 松澤岳晃, 福地稔, 石橋敬一郎, 持木彫人, 河野辰幸, 石田秀行.
食道癌発癌早期におけるCOX-2, iNOSと血管新生.
第67回日本気管食道科学会総会学術集会, 福島, 2015.11.19-20 (示説)
103. 福地稔, 斎藤加奈, 内藤浩, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行, 桑野博行.
食道切除後胸腔内吻合の縫合不全に対して内視鏡的ヒストアクリル注入を行った1例.
第67回日本気管食道科学会学術集会, 福島, 2015.11.19-20 (口演)

104. 牟田優, 石畝亨, 小倉俊郎, 福地稔, 持木彫人, 石田秀行.
特発性門脈血栓症の1治療例.
第33回埼玉県外科集談会, さいたま, 2015.11.21 (口演)
105. 井上慶明, 杉山亜斗, 青木耕平, 泉陽太郎, 儀賀理暁, 牟田優, 傍島潤, 石田秀行, 中山光男.
右鼠径ヘルニア嵌頓として発見された肺癌術後腹膜播種の1例.
第34回埼玉県外科集談会, さいたま, 2015.11.21 (口演)
106. 平岡優, 田島雄介, 松澤岳晃, 天野邦彦, 石田秀行.
悪性胸膜中皮腫の腹腔内進展によりイレウスを生じた1例.
第77回日本臨床外科学会総会, 福岡, 2015.11.26-28 (示説)
107. 熊谷洋一, 田久保海誉, 川田研郎, 傍島潤, 石畝亨, 松澤岳晃, 福地稔, 石橋敬一郎, 持木彫人, 河野辰幸, 石田秀行.
食道におけるエンドサイトスコピーシステムの到達点と将来展望.
第77回日本臨床外科学会総会, 福岡, 2015.11.26-28 (特別演題:口演)
108. 小野澤寿志, 持木彫人, 鈴木興秀, 石畝亨, 傍島潤, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 石田秀行.
経鼻経食道的腹腔ドレナージが奏効した腹腔鏡下胃全摘術後のmajor leakageの1例.
第77回日本臨床外科学会総会, 福岡, 2015.11.26-28 (示説)
109. 福地稔, 持木彫人, 石畝亨, 緒方杏一, 木村明春, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 石田秀行, 桑野博行.
切除不能胃癌に対するconversion surgery (RO) 後の補助化学療法は必要か?.
第77回日本臨床外科学会総会, 福岡, 2015.11.26-28 (主題関連演題:口演)
110. 岡田転輪, 石塚直樹, 山本梓, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.
保存的治療可能であった非外傷性S状結腸粘膜下血腫の1例.
第77回日本臨床外科学会総会, 福岡, 2015.11.26-28 (示説)
111. 近範泰, 石橋敬一郎, 伊藤徹哉, 田島雄介, 天野邦彦, 松澤岳晃, 傍島潤, 石畝亨, 崎元雅彦, 福地稔, 持木彫人, 石田秀行.
大腸穿孔症例におけるPMX-DHP施行によるHMGB-1値の影響.
第28回日本外科感染症学会総会学術集会, 名古屋, 2015.12.2-3 (口演)

112. 伊藤徹哉, 大木進司, 小林祐介, 齊藤勝, 隈元謙介, 近範泰, 天野邦彦, 松澤岳晃, 石畝亨, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 竹之下誠一, 持木彫人, 石田秀行.
低位鎖肛を伴った完全内臓逆位に合併した直腸癌に対し腹腔鏡補助下腹会陰式直腸切断術を施行した1例.
第28回日本内視鏡外科学会総会, 大阪, 2015. 12.10-12 (口演)
113. 山本瑛介, 石畝亨, 福地稔, 小倉俊郎, 牟田優, 持木彫人, 石田秀行.
出血性胃潰瘍を合併した特発性食道破裂の1例.
第839回外科集談会, 東京, 2015.12.12 (口演)
114. 石橋敬一郎, 伊藤徹哉, 近範泰, 天野邦彦, 隈元謙介, 石畝亨, 福地稔, 熊谷洋一, 持木彫人, 石田秀行.
大腸癌Stage IVの細分類は妥当か.
第84回大腸癌研究会, 熊本, 2016.1.15 (口演)
115. 崎元雄彦, 大室美紀, 齋藤恵子, 佐藤美雪, 小高明雄.
緩和ケア患者におけるチーム間連携.
第31回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 福岡, 2016.2.25-26 (口演)
116. 福地稔, 持木彫人, 石畝亨, 傍島潤, 斎藤加奈, 内藤浩, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 石田秀行.
食道胃接合部癌根治切除例の予後因子からみた治療戦略.
第48回胃病態機能研究会, 東京, 2016.2.27-28 (口演)
117. 天野邦彦, 伊藤徹哉, 山本梓, 近範泰, 石畝亨, 福地稔, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.
閉塞性左側大腸癌に対する治療戦略.
第52回日本腹部救急医学会総会, 東京, 2016.3.3-4 (パネルディスカッション)
118. 石畝亨, 桑原公亀, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.
重症大腸穿孔に対する治療戦略: 治療の標準化の試み.
第52回日本腹部救急医学会総会, 東京, 2016, 3.3-4 (主題関連演題: 口演)

119. 村田知洋, 傍島潤, 牟田優, 福地稔, 石畝亨, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 持木彫人, 石田秀行.
特発性中部食道破裂の1例.
第52回日本腹部救急医学会総会, 東京, 2016, 3.3-4 (一般演題: 口演)
120. 持木彫人, 石畝亨, 傍島潤, 熊谷洋一, 福地稔, 石田秀行.
早期胃癌に対する迷走神経腹腔枝温存, 腹腔鏡下幽門側胃切除の機能評価.
第88回日本胃癌学会総会, 別府, 2016.3.17-19 (示説)
121. 鈴木興秀, 近範泰, 立川哲彦, 伊藤徹哉, 石畝亨, 福地稔, 隈元謙介, 持木彫人, 赤木究, 石田秀行.
リンチ症候群のスクリーニングとしての60歳以下胃癌にミスマッチ修復タンパク欠失解析.
第88回日本胃癌学会総会, 別府, 2016.3.17-19 (示説)
122. 福地稔, 石畝亨, 緒方杏一, 石田秀行, 桑野博行, 持木彫人.
切除不能胃癌に対するconversion surgeryの役割.
第88回日本胃癌学会総会, 別府, 2016.3.17-19 (示説)
123. 石畝亨, 持木彫人, 福地稔, 傍島潤, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 石田秀行.
P1およびCY1胃癌の外科治療の役割.
第88回日本胃癌学会総会, 別府, 2016.3.17-19 (示説)
124. 近範泰, 鈴木興秀, 伊藤徹哉, 石畝亨, 福地稔, 隈元謙介, 熊谷洋一, 石橋敬一郎, 立川哲彦, 赤木究, 持木彫人, 石田秀行.
高齢者胃癌におけるミスマッチ修復タンパク発現欠失症例の特徴.
第88回日本胃癌学会総会, 別府, 2016.3.17-19 (示説)

教育講演等

1. 石田秀行.
消化管ポリポーシスに対する外科治療.
消化管ポリポーシス研究会 (日本消化器病学会附置委員会), 仙台, 2015.4.25 (特別講演)

2. 石田秀行.
大腸がん.
日本癌治療認定医機構 2015年度がん治療認定医教育セミナー, 幕張, 2015.11.7
3. 石田秀行.
家族性大腸癌.
第70回日本大腸肛門病学会学術集会, 名古屋, 2015.11.13-14
4. 持木彫人.
胃の生理・運動機能と病態.
第31回 日本消化器内視鏡学会関東セミナー, 東京, 2016.1.24
5. 石田秀行.
進行大腸癌に対する集学的治療.
第12回日本消化管学会総会学術集会, 東京, 2016.2.26-27

2015年度 学会・研究会 座長・司会

1. (司会) 石田秀行
大腸 術後補助化学療法
第115回日本外科学会定期学術集会, 名古屋, 2015.4.16-18 (口演)
2. (座長) 石田秀行
予後予測因子
第36回癌免疫外科研究会, 奄美, 2015.5.14-15 (口演)
3. (座長) 持木彫人
上部消化管6
第69回手術手技研究会, 高崎, 2015.5-15-16 (サージカルフォーラム)
4. (座長) 福地 稔
下部消化管2
第69回手術手技研究会, 高崎, 2015.5-15-16 (サージカルフォーラム)
5. (座長) 石田秀行
他科とのコラボレーション: 婦人科, 泌尿器科, 耳鼻科, 形成外科, 消化器外科
第40回日本外科系連合学会学術集会, 東京, 2015.6.18-19 (ワークショップ)
6. (座長) 石橋敬一郎
下部消化管-3
第40回日本外科系連合学会学術集会, 東京, 2015.6.18-19 (口演)
7. (座長) 石田秀行
主題Ⅱ切除可能な遠隔転移を有する大腸癌における外科治療の位置づけ
第83回大腸癌研究会, 福岡, 2015.7.3 (口演)
8. (座長) 熊谷洋一
頸部食道癌1
第69回日本食道学会学術集会, 東京, 2015.7.2-3 (示説)

9. (座長) 石田秀行
主題関連演題S-II-2
第37回日本癌局所療法研究会, 幕張, 2015.7.10 (口演)
10. (司会) 石田秀行
下部直腸癌に対する側方郭清の意義 - JCOG0212の結果から得たもの -
第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015.7.15-17 (パネルディスカッション)
11. (座長) 持木彫人 胃: 良性1
第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015.7.15-17 (口演)
12. (座長) 石橋敬一郎
大腸癌手術手技1
第70回日本消化器外科学会総会, 浜松, 2015.7.15-17 (口演)
13. (座長) 石田秀行
大腸 (癌 (その他の悪性腫瘍含む) 1
第57回日本消化器病学会大会, 東京, 2015.10.8-11 (示説)
14. (座長) 石田秀行
大腸 - 代謝・栄養, 周術期管理
第13回日本消化器外科学会大会, 東京, 2015.10.8-11 (示説)
15. (座長) 持木彫人
術後腸閉塞
第17回日本神経消化器病学会, 第9回機能性ディスペプシア研究会, 第83回消化器心身医学研究会, 第5回IBS研究会, 合同学術集会2015, 恩納, 2015.11.12-13 (口演)
16. (座長) 石橋敬一郎
その他 術後合併症
第70回日本大腸肛門病学会学術集会, 名古屋, 2015.11.13-14 (口演)
17. (座長) 石田秀行
第3回日本家族性大腸腺腫症研究会学術集会, 東京, 2015.11.19 (パネルディスカッション)

18. (座長) 石田秀行
食道外科手術 I
第 67 回日本気管食道科学会学術集会, 福島, 2015.11.19-20 (口演)
19. (座長) 熊谷洋一
食道病態
第 67 回日本気管食道科学会学術集会, 福島, 2015.11.19-20 (口演)
20. (座長) 石田秀行
閉塞性大腸癌に対する治療戦略 1
第 77 回日本臨床外科学会総会, 福岡, 2015.11.26-28 (口演)
21. (座長) 石橋敬一郎
結腸: 悪性疾患 1
第 77 回日本臨床外科学会総会, 福岡, 2015.11.26-28 (口演)
22. (座長) 石田秀行
術後抗菌薬関連下痢症の適正管理 - Clostridium difficile 感染症を中心に -
第 28 回日本外科感染症学会総会学術集会, 2015, 名古屋, 12.2-3 (シンポジウム 2)
23. (座長) 石畝 亨
一般演題 2: 胃 2・十二指腸・食道・肺.
第 839 回外科集談会, 東京, 2015.12.12 (口演)
24. (座長) 石田秀行
セッション 6 【大腸】
第 33 回埼玉県外科集談会, さいたま, 2015.11.21
25. (座長) 石田秀行
Stage IV の細分類 (II 転移臓器分類に基づいた比較)
第 84 回大腸癌研究会, 熊本, 2016.1.15 (示説)
26. (座長) 石橋敬一郎
瘻孔ケア, 褥瘡ケア, 失禁ケア
第 40 回埼玉ストーマ・排泄リハビリテーション研究会, さいたま, 2016.1.23
(口演)

27. (司会) 石田秀行
腹部救急患者に対する内視鏡下手術：下部消化管外科
第52回日本腹部救急医学会総会，東京，2016.3.3-4 (ビデオワークショップ)

28. (座長) 持木彫人
機能温存2 Function preserving surgery 2
第88回日本胃癌学会総会，別府，2016.3.17-19 (示説)

29. (モデレーター) 近 範泰
Colon 2: Clinicopathology 1
第53回日本癌治療学会学術集会，京都，2015.10.29-31 (示説)

2015年度 講演会・懇話会

座長・司会

1. 石田秀行 Saitama Colorectal Cancer Forum
さいたま, 2015.5.19 (座長)
2. 石田秀行 埼玉西部地区がんセンターボード
川越, 2015.7.22 (司会)
3. 石田秀行 第5回埼玉西部敗血症治療セミナー
川越, 2015.7.24 (座長)
4. 石田秀行 大腸癌治療カンファレンス in川越
川越, 2015.7.29 (司会)
5. 持木彫人 AMG内視鏡外科フォーラム
さいたま, 2015.8.8 (座長)
6. 石田秀行 Colorectal Cancer Symposium in SAITAMA2015
さいたま, 2015.9.18 (座長)
7. 石田秀行 Educational Seminar in SAITAMA
川越, 2015.9.25 (司会)
8. 福地 稔 Educational Seminar in SAITAMA
川越, 2015.9.25 (座長)
9. 持木彫人 西埼玉胃癌講演会
川越, 2015.10.20 (座長)
10. 石田秀行 第53回日本癌治療学会学術集会 スポンサーシップシンポジウム 02
京都, 2015.10.30 (司会)
11. 石田秀行 大腸癌治療カンファレンス in川越
川越, 2015.11.4 (司会)

12. 石橋敬一郎 第28回日本バイオセラピー学会学術集会総会
川越, 2015.12.3 (ランチョンセミナー座長)
13. 持木彫人 埼玉上部消化管手術研究会
さいたま, 2016.2.6 (座長)
14. 持木彫人 埼玉胃がん講演会
川越, 2016.3.10 (座長)

講演

1. 石橋敬一郎
大腸癌治療におけるスチバーガの役割.
バイエルWEBカンファレンス, 東京, 2015.4.9
2. 石橋敬一郎
大腸がんの診断と治療.
第2回埼玉西部地区がんフォーラム, 入間, 2015.5.16
3. 持木彫人
ここまで進んだ胃癌治療－楽にそして諦めない治療－.
Next Lecture Meeting in 川口, 川口, 2015.5.18
4. 石橋敬一郎
大腸癌三次治療以降の化学療法について.
Saitama Colorectal Cancer Forum, さいたま, 2015.5.19
5. 石田秀行 (会長講演)
少年の日の思い出～いつまで少年でいられるか～.
第21回日本家族性腫瘍学会学術集会 (会長講演), さいたま, 2015.6.5
6. 石橋敬一郎 (市民公開講座)
家族性大腸がんてなに? .
第21回日本家族性腫瘍学会学術集会 (市民公開講座), さいたま, 2015.6.6

7. 鈴木興秀
リンチ症候群における免疫組織化学的スクリーニングの有用性.
第21回日本家族性腫瘍学会学術集会（モーニングセミナー），さいたま，2015.6.6
8. 持木彫人
胃癌に対する低侵襲手術と諦めない胃癌治療.
富士吉田消化器癌講演会，富士吉田，2015.6.24
9. 石田秀行
消化管ポリポースと遺伝性大腸癌の新知見.
第46回広島消化管疾患研究会，広島，2015.7.21
10. 持木彫人
消化管運動の基礎と消化器外科手術後の機能障害.
消化管MOTILITY研究会，神戸，2015.7.24
11. 持木彫人
楽にそして諦めない胃癌治療.
北部胃癌化学療法講演会，熊谷，2015.9.9
12. 持木彫人
噴門側胃切除.
第5回さいたまLAGセミナー，さいたま，2015.9.12
13. 天野邦彦
ストーマ造設手術後のフォローアップ.
西部地区医療講習会，川越，2015.9.20
14. 松澤岳晃
Niti-S大腸ステントで変わる大腸がんイレウス治療.
第90回日本消化器内視鏡学会総会/ブラックファーストセミナー，東京，2015.10.10
15. 持木彫人
胃癌化学療法の変遷.
西埼玉胃癌講演会，川越，2015.10.20

16. 石橋敬一郎
大腸癌術後補助療法としてのmFOLFOX6, CapeOX療法.
大腸癌治療カンファレンス in川越, 川越, 2015.11.4
17. 持木彫人
癌治療により消化管の運動機能はどのように変化するか.
第28回日本バイオセラピー学会学術集会総会, 川越, 2015.12.4
18. 石田秀行
家族性大腸腺腫症の術後QOLとデスマイド腫瘍.
難治性疾患政策研究事業公開シンポジウム (消化管良性多発腫瘍好発疾患の医療水準向上に向けて), 東京, 2016.1.31
19. 福地 稔
当科における胃癌CapeOX療法の症例検討.
GI Cancer Forum, 深谷, 2016.2.4
20. 福地 稔
当院におけるCapeOX療法を施行した胃癌症例の検討.
第22回北関東外科機能温存治療研究会, 東京, 2016.2.20

その他の発表

1. 石畝 亨
進行胃癌の化学療法後手術症例.
第4回埼玉医科大学総合医療センター 自治医科大学附属さいたま医療センター
埼玉県立がんセンター消化器合同Cancer Board, さいたま, 2015.7.8
2. 熊谷洋一
T1a (M3) N1M0 食道癌の1例.
第73回食道色素研究会, 東京, 2015.7.10
3. 福地 稔
切除不能胃癌に対するconversion surgeryの問題点.
第2回埼玉上部消化器癌研究会, さいたま, 2015.7.21

4. 石畝 亨
切除不能胃癌に対する Conversion Surgery の治療成績.
埼玉西部地区がんセンターボード, 川越, 2015.7.22
5. 近 範泰
CapeOX+Bevecizumab 療法が著効したミスマッチ修復タンパク欠失 Stager IV 結腸癌の 1 例.
Educational Seminar in SAITAMA, 川越, 2015.9.25
6. 牟田 優
SOX 療法後に手術し得た進行胃癌の 1 例.
川越外科臨床研究会, 川越, 2015.10.28
7. 熊谷洋一
食道表在 mucoepidermoid carcinoma の 1 例.
第 290 回早期食道癌診断勉強会, 東京, 2015.11.14
8. 熊谷洋一
術前化学療法施行して困ってしまった 2 例.
第 5 回埼玉食道疾患懇話会, さいたま, 2016.1.22

パネリスト

1. 天野邦彦
Colorectal Cancer Symposium in SAITAMA2015, さいたま, 2015.9.18
2. 福地 稔
SOX を開始して胃癌治療は変わったか.
西埼玉胃癌講演会, 川越, 2015.10.20

表彰

・石橋敬一郎

平成26年度 日本外科系連合学会誌最優秀論文賞

直腸癌に対する骨盤内臓器全摘術後のsurgical site infection

日本外科系連合学会誌 39：1039-1048, 2014

研究費獲得

1. 石田秀行（分担）
文部科学省 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
次世代医療を指向するゲノム医学総合研究拠点の創生と展開
2. 石田秀行（分担）
平成28年度厚生労働科学研究費補助金（難治等（難）一般）
消化管良性多発腫瘍好発疾患の医療水準向上のための研究（石川班）
3. 天野邦彦
埼玉医科大学若手育成研究費（鴨田特別賞）
研究課題：新規エンドサイトスコピー（GIF-Y0074）を用いた食道病変の観察
4. 伊藤徹哉
埼玉医科大学若手研究（鴨田支援（鴨田研究支援賞））
次世代シーケンシング技術を利用した遺伝性消化管癌ならびに関連癌のリスク評価の確立

主な学会・研究会発表の年次推移

	05年度	06年度	07年度	08年度	09年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
日本外科学会	2	1	2	4	6	5	7	6	7	8	7
日本消化器外科学会総会	1	2	7	8	5	7	14	11	9	9	20
日本消化器外科学会大会						4	5	4	3	1	2
日本大腸肛門病学会	10	10	8	8	12	10	13	9	9	6	16
日本食道学会			1	2	1		1	4	1	4	3
日本胃癌学会			3	1	4	4	2	3	5	6	5
日本癌治療学会		1	3	3	6	5	8	6	6	9	9
日本臨床外科学会	16	3	17	13	11	7	11	11	11	9	5
日本腹部救急医学会		4			3	延期	7	3	5	3	3
日本外科感染症学会	1	5	5	3	4	1	8	1	2	3	1
大腸癌研究会(年2回)	3	3	2	2	5	3	3	5	5	3	3
日本癌局所療法研究会		2	5	5	6	8	9	14	6	7	13
その他の国内学会・研究会	10	17	23	26	27	12	11	11	41	45	37
ISUCRS 国際大学結腸直腸外科学会		3			9			4			
その他の国際学会	2	3	5	9	9	17	7	6	10	13	11
合計	45	54	81	84	108	83	106	98	120	126	135

2015年度 構成員

教授		准教授		講師		助教	
☆石田秀行		石橋敬一郎		▲福地 稔		●崎元雄彦	
★持木彫人		△熊谷洋一		○石畝 亨	2015/08～	傍島 潤	
岩間毅夫 (客員教授)						○石畝 亨	～2015/07
辻 美隆 (兼担)						松澤岳晃	～2015/09
						鈴木興秀	～2015/05
						天野邦彦	2015/06～
						今泉英子	
						小倉俊郎	
						田島雄介	～2015/07
						近 範泰	
						山本 梓	
						伊藤徹哉	
						平岡 優	
						牟田 優	
						小泉和恵	

☆診療部長、★副診療部長、○総務、●副総務、△病棟医長、▲外来医長

出向者 桑原公亀（白河病院）、沖田剛之（埼玉よりい病院）、吉田 裕（小川赤十字病院）、近谷賢一（国立がんセンター）、山本瑛介（都立大塚病院）、鈴木興秀（武蔵野赤十字病院）、石塚直樹（東松山市立市民病院）

2016年度 構成員

教授		准教授		講師		助教	
☆石田秀行		石橋敬一郎		▲福地 稔		傍島 潤	
★持木彫人		△熊谷洋一		○石畝 亨		天野邦彦	
岩間毅夫 (客員教授)						幡野 哲	
辻 美隆 (兼担)						小倉俊郎	
						近 範泰	
						山本 梓	
						伊藤徹哉	
						牟田 優	
						村田知洋	
						坂本眞之介	
						石川 葵	

☆診療部長、★副診療部長、○総務、●副総務、△病棟医長、▲外来医長

出向者 桑原公亀（白河病院）、沖田剛之（埼玉よりい病院）、吉田 裕（小川赤十字病院）、近谷賢一（国立がんセンター）、山本瑛介（都立大塚病院）、鈴木興秀（武蔵野赤十字病院）、石塚直樹（東松山市立市民病院）

編集後記

「2015年度埼玉医科大学総合医療センター 消化管・一般外科年報」が刊行されましたのでお届けします。

2015年度は最近2～3年の中では特にきびしい医療環境のなか、教室員が一丸となって診療、教育、学会発表・論文作成報告数などを例年通り行ってきました。

2016年度は2人の新入を迎え、新たなスタートを切ることも出来ました。これまで以上にOBの先生方、関連施設の先生方を含め、多くの関係者の方々にご指導を賜りながら、教室員一同力を合わせ邁進して参りたいと考えております。

引き続きご指導・ご鞭撻のほど重ねてよろしくお願い申し上げます。

石畝 亨